
神の黄昏超スピンオフ！ ～陽だまりスタジオ～

神崎はやて

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神の黄昏超スピノフ！ ～陽だまりスタジオ～

【Nコード】

N7647M

【作者名】

神崎はやて

【あらすじ】

神崎の読者様方参加型企画その2です。

対談方式で、ラジオ番組のような形式をとっていきますが、設定上テレビ放送であるため視覚に訴えるような表現をばんばん使っていけたらと思います。

よかったら見ていってくださいね！。
ゲスト出演やお便り、募集中です！

神崎「ふうう、酷い目に遭ったよ……。ありがとう、リオス」

リオス「気にする必要はないよ」

マクス「さ。それじゃ早速話してもらおうか。何故、俺達を此処へ呼んだ？」

神崎「ふっふっふ、よくぞ訊いてくれました！ この度！ 私、神崎はやては！ 新たな読者様参加型企画を始動させることをここに宣言いたします！」

士「……………よし、とりあえず殴らせる」

リオス「いつペン、凍ってみる？」

マクス「ヴァイステインの錆びになるか？」

神崎「いきなり酷い…………orz」

リオス「なんでさ！ こんなにもう作品あるのに、なんで新しいもの始めようとするかなあ、作者さんは！」

マクス「もうこれで9つ目だぞ！？ どうやってやっていく気だ！！？」

士「先のこともちよつとは考える！」

神崎「考えてるっての！ 仮面ライダー'sはなんか人気ないから打ち切ることになりそうだし、仮面ライダー剣は間違っつて短編で登録してるだけだし、実質今本格運用状態にあるのは3作品だけな

んだ！ しかも8人の創造者は同じ企画作品で週一更新だから、特に困る事態にはなっていないしね」

マクス「むう……………」

リオス「なるほど……………」

士「大体解った。で？ その企画ってのは何だ？ さっさと答え」

神崎「あー、はいはい。それでは。活動報告にも書きましたが、タイトルはコチラ！ 『神の黄昏超スピンオフ！ 〵陽だまりスタジオ〵』です！」

士「超スピンオフ……………ディケイドのあれか？」

神崎「内容は全然似てないけどね」

リオス「というと？」

神崎「つまり、掻い摘んで内容を説明しますとだね、いろいろなコーナーをやっているつつ、神崎が書いております作品の裏話やネタなどを暴露したりいろいろやってみよ〵、というものです。今方々でよくやっておられる、ラジオ系作品に近いですね。違うのはラジオ形式ではなく、テレビでよくやってるスタジオ対談形式という感じを想像してくださいればちょうどいいかと思えます。バラエティの大人しい(?) Ver.」

マクス「なるほどな。つまりはラジオ形式ではあまり出来ない、視覚に訴える表現も出来るってわけだな」

神崎「そのとおりだよ。さすがマクス。まあ、流れとしては基本的にはゲストを迎えつつ、皆様から送っていたいただいたお便りを紹介してトークしたりとか、企画に挑戦したりとか、作品の裏話を暴露したりとか、そういう感じで、実質、皆様がやっていらっしやいますラジオ形式作品と似たような感じになるとは思いますが。」

皆様参加型のお便りコーナーの内容は、こんなのを考えてます。

『司会者に訊こう！』

・毎回変わる司会者に質問するコーナー。司会者はその前の更新の時に教えます。

ちなみに来週の司会者は、仮面ライダーディケイドAfter the Movie Warより門矢士、魔法少女リリカルなのはStrikerS、氷翼の天使よりリオス、コーネルド、SPIRITUAL ARMSよりマクス、トレンジアの、主人公トリオでお送りする予定です。

『神様の前でごめんなさい』

・……………はいそこ、某笑いを堪える番組みたいだとか言わない。視聴者の方が最近謝りたいことをぶっちゃけ、それを司会者やゲストに裁いていただくコーナー。

『言わせてみよう、あのセリフ！』

・本編じゃ言わないかもしれない、あんな台詞やこんな台詞を、司会者に言わせてみようというコーナー。著作権ものでもOKですが、神崎が知らない作品からの場合は採用されないかもしれませんが（理由：ネタが造りにくいから）

こんな感じですね」

士「なるほどな」

リオス「そういうことならOKだよ。ゲストで誰が来てくれるのかな。楽しみー」

マクス「コーナーはこれだけなのか？」

神崎「一応はね。まあ、読者様方から希望があれば増やすことになるだろうけど、とりあえずはこんだけ」

マクス「そうか」

神崎「それでは、『神の黄昏超スピノフ！ 陽だまりスタジオ』、来週よりスタートです。皆様のゲスト出演、及びお便り投稿を心よりお待ちしております！ それでは、また次回まで！」

士・マクス・リオス「またな（ね）！」

募集要項です。

まず、ゲスト出演条件。

書くネタの関係上、15話以上進んでいる作品で、それなりに出番もキャラの位置づけも決定しているキャラクターでお願いします。ネタにしにくいです。最後に、リリカルなのは、仮面ライダー作品、もしくはオリジナル作品のキャラであること。それ以外は今のところ受け付けておりません。どうしても、という方はメッセージ

までお申し出下さい。知っている作品の2次であれば、出せるかもしれないので。

あとは特に基準はありませんので、好きなキャラをどうぞ。

続いて、上記にも書きましたお便りコーナー。

送るのは、メッセージまで。住所（勿論架空。ネタでも構いません。その方が雰囲気出ますしね）、ペンネーム、送るコーナーのタイトルとその内容を書いて、神崎のメッセージボックスまでお願いします。

それでは。たくさんのご応募、お待ちしております。

第1回 テスト期間中って言うけれど、大抵は何かしら無駄なことをしている

士「^{つかさ}やれやれ、漸く第一回か？」

マクス「みたいだな。で？ 今ここにいるのがこの面子ってことは、今回は俺達が司会ってわけか？」

リオス「そうらしいよ。ゲストは誰なんだろうね？ 早く会いたいなあ」

士「面倒なやつでないことを願う」

マクス「右に同じ、だな」

リオス「ははは……（汗） それでは、試験中にやっちゃいました！ ゲリラ放送な第一回、始まります！」

士&マクス「いや、勉強しろよ！」

第1回 「テスト期間中って言うけれど、大抵は何かしら無駄なことをしている」

マクス「おいおい、タイトルからして作者のぐうたらを絵に書いたようだぞ」

士「しかも、軽くこの番組を無駄扱いしているぞ？……しかし、緊張感というものがまるでないな。本当に進級する気があるのか？」

リオス「作者さん言ってたけど、ずっと勉強してるだけじゃ長続き

しないんだよきつと」

マクス「にしたって、限度つてもんがあるだろ。…………ま、ここで作者の墮落っぷりを嘆いていても仕方ねえな。さっさとゲスト呼ぶぞ」

リオス「あいあいさー。それでは、本日のゲスト！ 抽選により選ばれた栄えある（？）第1回のゲストはこの方です！ どうぞ！」

フィル「どうも〜！」

士&マクス「出たな、フラグ大魔王！」

フィル「出てきていきなり酷すぎるだろ！！ ていうか何だよそのテイ　ズの称号みたいな奴！！？」

リオス「…………えー、というわけで今回のゲスト。アルフォンス先生監修、魔法少女リリカルなのはStrikers　Remem　ber　my　heartより、人外にまでフラグを立て続けた脅威のフラグ生産機！ フィル　グリードさんにお越しいただいております！」

フィル「り、リオスさんまで酷すぎですよ……………（泣） あ、どうも。フィル　グリードです」

マクス「だが、事実だろ？」

フィル「…………IFエンディングの可能性をいっばい立てたことは否定しませんけど。でも、それぞれのストーリーでは俺はちゃんと1人に絞りましたから。ハーレムとは違うんです！」

士「どっかの首相みたいなこと言いやがって。それにだな、お前、最近人外にもフラグ立てたそうじゃねえか」

マクス「どんなものが来ても驚かない自信があつた作者も度肝を抜かれてたな。まさかのフリードか、と」

リオス「デバイスのプリムもユニゾンデバイスになつてたしね。拳句、最近ではエリオだっけ？ 凄いの一言に尽きるよ、ほんと」

フィル「うつ………そう言われると、返す言葉がない」

マクス「ま、遠慮なく受け取つとけ。滅多にもらえないぜ、こんな称号？」

フィル「いらないっ！」

マクス「そういえば、リオスもこいつの出てる作品に出演してるんだつたな？」

リオス「うん、フィルの師匠役としてね。結構いろいろやらせていただいたよ」

フィル「結婚式の料理作っていただいたりね。あの時は本当に、ありがとうございました！」

リオス「いやいや、別にいいんだよ。そっちのなのは元気？」

フィル「はい。会いたがってましたよ、とても」

リオス「そ、そうなんだ」

マクス「なあ、もしかしてそのなのはと、こいつ……（ひそひそ）」

フィル「ああ。付き合ってるぞ（ひそひそ）」

士「だが、こっちなのはとティアナとも……（ひそひそ）」

フィル「え、そうだったのか?!（ひそひそ）」

マクス「……………リオス、こいつ以上のフラグ生産機かもしれんな（ひそひそ）」

フィル「リオスさん……（泣ノひそひそ）」

リオス「こらあああああああ！ 聞こえてるぞ—————
—————!!!?!?」

ティアナ「陽だまりスタジオ!」

リオス「さて、では早速お便りコーナーに入っていきたいと思いま
す！」

マクス「最初はこれだ。『司会者に訊こう！』」

士「このコーナーは、この番組に出ている司会者へ読者から届いた
質問に、司会者自身が答えるというものだ。嘘偽りは許さん。本音
で語れ！」

フィル「最初のお便りは、と……。えー、
にお住まい
の……何故に記号？ ええと、漆黒の不死鳥様。『主人公をしてい
て、一番疲れたことは何ですか？』だそうだけど？」

マクス「俺は……。何だろうな。次々に厄介ごとに巻き込まれたと
ころか」

リオス「それは主人公やってるなら皆そうじゃない？」

士「ま、そのとおりだな。俺は、海東の相手をする時か。あいつの
相手は疲れるなんてものじゃないぞ。出来れば会いたくないな」

リオス「あはは……。えと、僕は皆に女装させられそうになって逃
げる時かな。女難の相でも出てるのかな……。(orz&遠い目)」

士「なんつーか……」

マクス「……………とりあえず謝っとくぜ。すまん」

フィル「リオスさんの苦勞に比べたら、2人なんてまだまだいい方みたいだな」

マクス「……………だな」

リオス「そ、それでは次のお便り。聖王のゆりかご内の駆動炉にお住まいの……………ってそれ、人の住むところじゃないでしょ！（汗）……………まあいいや。検体番号10032さん。『三人の掲げる？正義の定義？とは何ですか？』だって」

士「正義？俺の通りすぎる世界を守ることだな」

マクス「とりあえず人の生を全うしようとしないやつ、させないやつは問答無用で悪決定だな。一生懸命生きようとする奴に、正義も悪もねえよ」

リオス「僕は……………やっぱり大切な人を傷つけないようにすること、かな」

フィル「真面目な意見が出揃ったな」

マクス「さすがに、この質問じゃボケようがねえだろ」

士「ボケられたらそいつは天才だな」

リオス「これで、このコーナーは終了します。では次！『言わせてみよう、あのセリフ！』」

マクス「このコーナーは、視聴者から送られてきた、司会者に言わせてみたいあんなセリフやこんなセリフを実際に言ってもらおう、というものだ」

士「最初のお便りはこれだな。ネガの世界の、写真真館にお住まいの……人外？ ヴィランズさんより。……っておい、これ本当に言うのかよ……」

マクス「どうした？ さっさと腹くくれ」

士『……おい、夏メロ（夏海の胸を見て）……すまん、なつみか
ん』

リオス「これは……海東さんが夏海を夏メロンって呼んでたのからきてるのかな？」

マクス「いやいや、ていうか反応しろよ。つーかそれ以前に、今にもここへ来て？ 笑いのツボ？ をきめようとしてる照明係をなんとかしろ」

リオス「夏海さん！ あとでケーキ作ってあげるから、今は許して！ それとこれ、ネタなんだから！ あくまでネタだからっ！」

士「ふう、助かったぜ……って、まだあんのかよ……」

士『（海東へ向かって）さあ……………お前の罪を数える！』

マクス「海東の罪……………ありすぎだろ」

リオス「少なくとも、盗みの件数だけなら下手なこそ泥よりよほどありそうだよね」

フィル「数え切れないから却下、かな」

士「……………もう2度とやらねえ」

リオス「まあまあ、あくまでネタなんだから。えーと、次は、と……………。再びきました、聖王のゆりかご内の駆動炉にお住まいの、検体番号10032様。……………だから、そこ住めるんですか？」

リオス『ふははははははーっ！！凄強いぞかっこいい！！！！！！』

士「年季の入り様が違うな」

フィル「こら、下ネタはNGだろうがっ！…………こほん。さて、改めまして、フェイトさんの膝枕にお住まいの、エロティック大統領様。また凄いペンネームだな……………（汗）ではお3方。台詞の方、どうぞ」

マクス「一人で六課全員の女性にフラグを立てるなんて……………」

士「無茶だろ！」

リオス「そんな道理……………僕の無理（フラグ構築力）でこじ開ける！……………」

マクス「まさかのグラハム！！」

リオス「……………え？ 何コレ、虐め……………？ 僕ばかり弄られてるような……………（泣）」

マクス&士&フィル「事実（だろ/でしよう）」

リオス「……………orz」

マクス「さて、これでこのコーナーは終了だな」

士「そうだな。それじゃ、CM挟むぞー」

フィル（リオスさん、ご愁傷様です…………… /合掌）

かの破壊者も愛用！

マゼンタカラートイカメラが、今なら驚きの1000ウォン！

今すぐお買い求めを！

家電量販店タカハシカメラ

絞れば絞るほどジューシーなジュース！

なつみかん×なつみかん！ 好評発売中！

（株）ハコダテ

士「さて、散々馬鹿やってたこの番組もいよいよ終了だな」

マクス「最後にフィル、番宣を頼む」

フィル「解った。ええと、俺が出ている作品は、魔法少女リリカルなのはStrikers Remembrance my heart」というものだ。未来の世界において悪逆非道の限りを尽くし、管理局を壊滅にまで追いやったクアットロ。その運命を変えるべく、主人公である俺、フィル「グリードが過去へと渡り、誰も殺さずにJS事件の解決を目指す、そんなお話だ。もう完結してるけど、是非見てくれよな！」

マクス「はい、サンキュー。さて、そろそろエンディングへいきたいんだが……ほら、いつまでそうしてる。さっさともの席に戻れ」

リオス「うう……わざとじゃないのに……（泣）」

士「安心しろ。もはや誰もがお前のことをフラグ皇子だと信じて疑わねえから」

リオス「うわああああああん、グレてやるううううー
—————」

フィル「ちょ、リオスさん!? まだ本番中ですよ!!!? 戻ってきてくださあーい!!!」

2人共退出。

マクス「……………行っちゃったな」

士「たく、ゲストまでいなくなっちゃったら最後が締まらねえだろが」

マクス（リオスはどうでもいいのかよ/汗）

士「んじゃ、仕方ねえ。俺達だけで終わるか」

マクス「そうだな。それじゃ、これで今回の放送を終わるぜ」

士「ゲスト出演、お便りともに大募集中だ。どしどし応募してくれ」

マクス「応募要項はこれだ」

募集要項です。

まず、ゲスト出演条件。

書くネタの関係上、15話以上進んでいる作品で、それなりに出番

もキャラの位置づけも決定しているキャラクターでお願いします。
ネタにしにくいです。最後に、リリカルなのは、仮面ライダー作
品、もしくはオリジナル作品のキャラであること。それ以外は今の
ところ受け付けておりません。どうしても、という方はメッセージ
までお申し出下さい。知っている作品の2次であれば、出せるかも
しれませんので。

あとは特に基準はありませんので、好きなキャラをどうぞ。

続いて、上記にも書きましたお便りコーナー。

送るのは、メッセージまで。住所（勿論架空。ネタでも構いません。
その方が雰囲気出ますしね）、ペンネーム、送るコーナーのタイト
ルとその内容を書いて、神崎のメッセージボックスまでお願いしま
す。

やってほしいコーナー、出してほしいネタCM也大募集です。どし
どしご応募くださいませ！

それでは。たくさんのご応募、お待ちしております

マクス「それじゃ、次回も、」

士「楽しみにしてるよー!」

マクス&士「またな!」

次回の司会は、仮面ライダーディケイドAfter the Movie Warより、光夏海。魔法少女リリカルなのはStrikerSより、氷翼の天使より、エミリア。SPIRITUAL ARMSより、レインシア||リ||グランヴァールの、ヒロイン3人組を予定しています。

それでは、次回もお楽しみに

第1回 テスト期間中って言うけれど、大抵は何かしら無駄なことをしている

リオス「この番組は、GONAMIと、

(氷) 凍練弩氷菓

(強) 戸鍊次亜剣術スクール

(旅) 仮面の破壊者

ご覧のスポンサーの提供で、お送りしました」

第2回 テスト期間しゅーーーーりよおーーーー！！

夏海「今回は私達ですか」

レインシア「そうみたいですわね」

エミリア「……………」

夏海「……………あの、これってテレビ番組なんですよね?」

レインシア「? そのはずですが……………何か?」

夏海「いや、その……………明らかにこういった趣旨の番組には向かない方が1人いらっしやるんですが……………」

レインシア「……………あ、あはは(汗)」

エミリア「……………」

夏海&レインシア(き、気まずい……………!)

第2回 テスト期間しゅーーーーりよおーーーー

夏海「……………これをタイトルと呼んでいいのか、甚だ疑問ではありますが。そろそろ始めましょうか」

レインシア「ですね」

エミリア「……………（くいくい）」

レインシア「エミリアさん？ 何ですか？」

エミリア「……………天使は、いないの？」

レインシア「リオスさんですか？」

エミリア「……………（こくん）」

夏海「ああ、今日は司会じゃないし、裏方にもいませんね」

エミリア「……………天使、いないの？（じわっ）」

レインシア「ああ、エミリアさんが涙目に！（小声）」

夏海「ど、どどどどどうしましょう！？（小声）」

海東「そんな君達に朗報さ」（ 2人の背後から出現）

夏海&レインシア「うひゃあああああっ！？」

エミリア「……………ぐすん…海、東？」

夏海「どこから出てきてるんですか、海東さん！」

海東「細かいことは水に流したまえ、夏メロン」

夏海「細かくないでしょう！？ 本番中ですよ、今！？ ていうか、なつみか……………じゃなかった、夏海ですっ！ 何度言ったら解るんで

にいるの！？ 部屋で着替えてたはずなのにいいいいいいいい！！
？」

夏海「ち、」

リオス（着替え中&半脱ぎ）「……………ち？」

レインシア「近寄らないで下さいー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！？」

リオス（着替え中&半脱ぎ）「ちょ、待って、僕のせい！？ 僕のせいのこれ！？ ん、レインシアさんマイク投げないで……………って夏海さんも！ 何キバーラサーベル構えてるんですか！？ 海東さん、助け……………って、いないし！？」

海東（透明）「ははは、ごめんね、リオス君」

リオス（着替え中&半脱ぎ）「インビジブル使ったな！？ 卑怯者
おおおおおー！ー！ー！ー！ー！」

夏海「天誅！」

リオス（着替え中&半脱ぎ）「夏海さん、ちょ、まっ！……………ひい
やあああああああああああああ！？」

海東「……………南無」

エミリア「うう？？」

なのは「ひ、陽だまりスタジオ！／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／」

リオス「うう、酷い目に遭った……………」
(ちゃんと着た)

夏海「じ、ごめんなさい」

レインシア「すみません……………」

リオス「いや、いいんだよ。寧ろ僕としては、全国ネットでアレが流れたんだということの方がダメージ大きいから。……………精神的に」

レインシア「あ、あはは……………」

夏海「こほん。さて、それではそろそろゲストの紹介に移りたいのですが」

リオス「……………夏海さん、酷いです(泣)」

夏海「それでは、本日のゲストはこの方です！ どうぞ！」

ルーク「こんにちは！」

リオス「いよつ、エロティック大統領！」

ルーク「いきなり失礼だな君は！？……………って、リオス？ どうしているの？ 今日は女性だけって聞いてきたんだけど……………」

リオス「急な用事で呼ばれた……………って、言えば解る？」

エミリア「天使……………（ぎゅー）」

ルーク「……………うん、なんとなく解った」

夏海「というわけで、本日のゲスト！ F20C先生監修、魔法少女リリカルなのはStrikers Lost Memoryの主人公！ どんなアクシデントもエロイベントに変えてしまっ、驚くべきエロの伝道師！ ルークさんにお越しいただいております！」

ルーク「ちょ、酷くない、その紹介！？ まるで僕が本編でエロいことしかしてないみたいじゃないか！！」

夏海＆レインシア＆リオス「え、違う（んですかノ）？」

ルーク「……………泣いてもいい？（泣）」

夏海「もう泣いてるじゃないですか。さて、そろそろお便りコーナーへ参りましょうか」

レインシア「そうですね。さて、じゃあ最初のコーナーはこれです！『司会者に訊こう！』」

夏海「このコーナーは、私達司会者へ寄せられた質問に、私達が嘘偽りぬきで答えるというもので、ですね」

ルーク「最初のお便りは……………フェイトⅡⅡハラウオンに隠れ住んでいる……………って、フェイトさん！？ だから時々おかしくなるんですか！？」

レインシア「それは……………違うかと（汗）」

リオス「OK、ルーク。とりあえず落ち着こう」

ルーク「う、うん。さて、改めて。フェイトⅡⅡハラウオンに隠れ住んでいる、PN：ファンゲイマジンさん。『女性として、野郎共に言っただけだ』ってやりたいことは？』だそうだけど？」

夏海「そうですね……………。もうちょっと、周りのことを考えてほしいですね。いつもいつも周りを引っ掻き回して……………こちらの苦労も知ってほしいです！」

リオス「（あはは、誰のこと言ってるか簡単にわかってしまうのがまたノ笑）レインシアさんは？」

レインシア「私は、特に。マクスは完璧な殿方ですし、ファインや他の皆もよく尽くして下さいますから。ただ……………」

ルーク「ただ？」

エミリア「……………」

レインシア「エミリアさん？」

エミリア「……………」

夏海「もしもし？」

エミリア「……………」

ルーク「……………思ったんだけど、エミリアちゃんってこの企画に合
わないんじゃない？」

リオス「いや、そのネタはさっきやったから」

エミリア「……………んな」と…」

一同「????？」

エミリア「そんなことないもん！」

一同「!……!」

夏海「しゃ、喋った!？」

レインシア「え、エミリアさん、ちゃんと喋れたんですか!？」

エミリア「……………エミリアね……………エミリアだって普通の女の子な
んだからー、喋ろうと思えばちゃーんと喋れるよー」

「同「!?!?」

エミリア「でもあー、キャラクター性を重視するという観点から、あえて無口に喋れーって、えらーい人が言っただよー」

夏海「……………なんていうか、聞こえちゃいけない作品の裏側が、聞こえちゃった気が……………」（滝汗）」

ルーク「ていうか、どこのテイ ズですか、どこのゴルデンビトリーですか!」

リオス「それは言わないお約束で」

エミリア「……………天使」

レインシア「……………」（汗）　　そ、それでは気を取り直して、次のお便りいってみましょう!」

夏海「そ、そうですね。では次のお便り。第97管理外世界、光写真館にお住まいの……………て、うちですか!?　い、いつの間に……………。ええと、PN:綾崎様。『エミリアちゃん、リオスの第1印象は?』ということですけど?」

エミリア「……………」

レインシア「あー、エミリアさん。訊かれていますよー?」

エミリア「……………」

リオス「……………エミリア。今だけでいいから、喋って」

エミリア「かつこよかったです！（握り拳）」

リオス「いや、そこまで興奮しなくても……………」（苦笑）」

ルーク「うーん、どんどん彼女のイメージが崩壊していく（汗）」

夏海「イメージといえば、ルークさんも随分最初と比べて印象が変わりましたよね」

ルーク「そうかな？」

レインシア「ですね。最初は記憶喪失、何故か強くて性格もいい、そんな印象だったのに……………」

リオス「最近では、シリアス以外の日常編ではことあるごとにフェイトやオリキャラであるアイリスを巻き込んでのエロネタに突入するもんね」

ルーク「わ、わざとじゃないって！」

リオス「どうかなく。案外寝てるハプニングの時も実は起きてたんじゃないの？ 上手く体の重心操ってフェイトの胸にダイブできるような体を誘導して、上手くいったら某死のノート持つてる天才ばりに『計画通り！（・・・）』とかいうあの黒い笑みを浮かべてるんじゃないの？」

ルーク「あんた俺のことそんな風に思ってたの！？ 違うからね！
？ マジで意識なかったから！」

夏海「まあ、女の敵の意見は軽く流すとして……」

ルーク「な、夏海さんまで酷い……orz」

レインシア「げ、元気出してください」

ルーク「ああ、レインシアさんだけが俺の味方だああ~~~~~！
(ホロリ)」

レインシア「あ、あはは……。さて、これでこのコーナーはお終
いとします。次のコーナーは、『神様の前でごめんなさい』！」

エミリア「このコーナーは、視聴者様から寄せられた様々な懺悔を、
私達が裁いていくというものです……」

リオス「このコーナー初の記念すべき最初のお便りがこちら！ベ
ンタラ内光写真館にお住まいの……ミラーモンスター？PN：ヴ
イランズさん。……最近、一つの更新サボって、もう一個の方
中心にしています。しかも、頑張れば両方できますが、やれて……い
や、やってません！！ごめんなさああああいつ！！」だそ
うだよ」

夏海「複数作品の投稿ですか……。うちの作者さんも、確か複数作
品投稿してますよね？」

レインシア「今のところ本格的に執筆が進んでいるのは、魔法少女
リリカルなのはStrikers、氷翼の天使、仮面ライダー
ディケイドAfter the Movie War、8人の創造
者、そしてこれ、陽だまりスタジオですね」

リオス「今は僕の作品、氷翼の天使をメインで投稿してるけどね」

ルーク「配分はどうなってるの？」

リオス「ええと、確か、平日はなのはを更新、その内のどれか1日でデイケイドを更新して、土曜は8人の創造者、日曜は陽だまりスタジオ、だね」

ルーク「つまり、なのはに偏ってるっていうわけか」

夏海「ですね。仮面ライダーやSPIRITUAL ARMSも続けていきたいんですけど、何故か最近なのは以外の作品が進まなくなってしまうって、それで、ノリにのっていたなのはをメイン化して先に終わらせてしまおうと、そういう考えらしいです」

ルーク「なるほど。……じゃあ、特に偏っても問題はないと、そういうことかな？」

レインシア「そういうことですね。というわけで！ 私達の判断では、ヴィランズさんは無罪！ 偏ってでも、その作品に専念してみてください！ それからでも、もう片方を更新する気が起きうるかもしれませんよ！」

夏海「では、これで一旦CM挟みます！」

どんな疲労も傷も、これ一本で全て解決！

星が弾けるほどの疲労回復！

一発！

鳶とんびのマークの江戸製薬です。

(鳶とんび) 江戸製薬

実用品からマニアックな品まで！

婦人服なら、我々にお任せ下さい！

アカキ

リオス「さて、お時間が迫って参りましたが、最後にこちら！
言わせてみよう、あのセリフ！』のコーナー！」

エミリア「これが、お便り……………」

リオス「さあ、早く読んで」

エミリア「……………（こくん） 聖王のゆりかごの駆動炉にお住まいの、PN：検体番号10032さん」

リオス「……………引っ越してはいかが？」

エミリア『この銀河を統括する情報統合思念体によって作られた、対有機生命体コンタクト用ヒューマノイドインターフェイス、それが私。信じられないかもしれないけど、信じて』

ルーク「……………なんだろう。全然違和感がない」

夏海「同じ無表情&無口同士ですからね（汗）」

リオス「長門さんだ……………長門さんがいるよ……………」

レインシア「凄く似てますね……………。さて、長らくお伝えして参り

ましたこの番組も、そろそろ終了のお時間が来たようです」

夏海「寂しいですね……。それではルークさん、番宣をお願いします！」

ルーク「あ、はい。えー、俺がやってるのは、魔法少女リリカルなのはStrikers Lost Memoryという作品です。記憶喪失のまま六課に保護された、俺が、六課の愉快的仲間達とともに記憶を取り戻そうと奮闘するストーリーです。最近はかなりシリラス、鬱展開上等のストーリー展開になってますが、皆どうか見てね！」

夏海「はい、ありがとうございます！ それではここで、お便りやゲストの募集要項についての説明です」

募集要項です。

まず、ゲスト出演条件。

書くネタの関係上、15話以上進んでいる作品で、それなりに出番もキャラの位置づけも決定しているキャラクターをお願いします。ネタにしにくいです。最後に、リリカルなのは、仮面ライダー作品、もしくはオリジナル作品のキャラであること。それ以外は今のところ受け付けておりません。どうしても、という方はメッセージまでお申し出下さい。知っている作品の2次であれば、出せるかもしれないので。

あとは特に基準はありませんので、好きなキャラをどうぞ。

続いて、上記にも書きましたお便りコーナー。

送るのは、メッセージまで。住所（勿論架空。ネタでも構いません。その方が雰囲気出ますしね）、ペンネーム、送るコーナーのタイトルとその内容を書いて、神崎のメッセージボックスまでお願いします。

やってほしいコーナー、出してほしいネタCM、出して欲しい司会者も大募集です。どしどしご応募くださいませ！

それでは。たくさんのご応募、お待ちしております

夏海「こんな感じですね」

レインシア「今回採用されなかったお便りも、また別の機会に発表させていただきたいと思いますので、首を長くしてお待ち下さい」

夏海「それでは、」

ルーク「次回も！」

一同「お楽しみに！」

次回の司会は、仮面ライダーディケイドAfter the Movie Warより、海東大樹。魔法少女リリカルなのはStrikersより、氷翼の天使より、タナトス。SPIRITUAL ARMSより、シュリフォンダブルザベルを予定しています。

それでは、次回もお楽しみに

第2回 テスト期間しゅーーーーりよおーーーー！！

夏海「この放送は、GONAMIと、

(氷) 凍練弩氷菓

(強) 戸鍊次亜剣術スクール

(旅) 仮面の破壊者

ご覧のスポンサーの提供で、お送りしました」

第3回 ライバルキャラだらけってこんなにギャグし辛いのか……………（滝汗）

読む前に注意。

今回はマジでキャラ崩壊している確率大！

それに短いし、CMも入ってない！

それでもいいという強者の方は、お進み下さいませ。

第3回 ライバルキャラだらけってこんなにギャグし辛いのか……………(滝汗)

ドルザベール「ふむ、今回は我らが司会か？」

タナトス「そのようだ。全く、この俺がどうしてこんな茶番を……………」

海東「まあいいじゃないか、君達。僕は別に構わないよ？」

タナトス「……………俺としては、お前がこの企画にのってきたことが遥かに驚きなのだがな」

ドルザベール「確かに。どうしてなのだ？」

海東「なあに、前報酬をもらってね」

タナトス「報酬だと？」

海東「ああ。これさ」

ドルザベール「あれは……………(ひそひそ)」

タナトス「ああ……………胡椒だな(ひそひそ)」

ドルザベール「ということは……………(ひそひそ)」

タナトス「ああ……………」

ドルザベル&タナトス「また、騙されたのか……………」（汗）

第3回 ライバルキャラだらけってこんなにギャグし辛いのか……………
……………（滝汗）

タナトス「……………おい。もはやタイトルが作者の心の叫びになっているぞ」

海東「そんなに書きにくいなら、僕らと呼ばなければいいのに。馬鹿だねえ」

ドルザベール「まあいいではないか。その馬鹿のおかげで、我らもここに出ることが出来たのだからな」

タナトス「道理だな。さて、本来俺はこんなところに出るような人間ではないのだ。とっとと読んで、とっとと帰らせてもらおうぞ」

ドルザベール「ふむ、では早速お便りに参ろうか。……………と、言いたいところではあるのだが」

海東「？ どうかしたのかい？」

ドルザベール「なんと、先週から今週にかけてお便りが一通しか来なかったのだ」

タナトス「なんと……………。それではどうするのだ？」

海東「先週のお便りで、採用できなかったものがあるんだろ？ それを使ったらどうか？」

ドルザベール&タナトス「それだ！」

海東「では、早速選別に入ろうか」

ドルザベール「うむ」

タナトス「心得た」

???「あの……………紹介……………（涙）」

はやて「陽だまりスタジオ」

ドルザベール「ふむ、漸く終了したな」

タナトス「先週は女性達が司会の回だったからな。彼女ら向けのお便りも多かったな」

海東「それは後々、彼女らに読んでもらえばいいじゃないか。とりあえず僕らはこの場を乗りきろう」

タナトス「その場ののぎか……。認めたくはないが、確かにそのとおりだな」

ドルザベール「では気を取り直して、早速お便りの方を「あのう……」？ なんだ君は？」

????「酷すぎるだろ！ 何ゲストほっぽってさっさと始めちまおうとするかなあ！」

3人「早く帰りたいから（な／ね）」

????「……………もう嫌（滝涙）」

海東「……………えー、大変面倒なんだけどゲストー。左近 遼先生監修、魔法少女リリカルなのはStrikerSの影の守護者より、脱力系の苦勞人（？）はやてのギャグを唯一殺せる狸キラー。ユウ「サエグサと、その姉にして実は主人公よりも強い？ ミツキ「サエグサー」

ユウ「何だよ、そのやる気なさげな紹介！ もっとやる気出せよ！」

海東「えー、君に合わせたつもりなんだけど。駄目？」

ユウ「いくら俺でもそこまでテンション低かねえよ！ 共感通り越して引くぞー！」

ミツキ「それに私の説明何！？ 要は暴力女って言いたいんでしょー、そーでしようー！」

タナトス「感想欄を見る限りでは、そーとしか思えないのだが………」

ミツキ「そーっ、グラムもどきは黙って！」

タナトス「ぐはっ！」 性格のモデル、グラハム「エーカー男（但

しあそこまで奇妙奇天烈な言動でも性格でもない)

ドルザベール「た、タナトス!? しっかりしろ!」

海東「タナトスに172のダメージ」

ユウ「いや、どこのドラ エだよ!? それにダメージが妙にリアルすぎるだろ!」

ミツキ「ていうかそれ以前に、もういい加減、その脱力な話し方やめたら? 読者さんが見たら、絶対キャラ崩壊したと勘違いされそうな気が……」

海東「ふむ、結構気に入ってたんだけどな。ま、いいか」

タナトス「貴様らぁ………(怒)」

ドルザベール「………このスタジオが血の海にならん内に始めた方が賢明だな」

海東「………そのようだね。さてと、じゃあ最初のお便りコーナーへいこうか。『司会者に訊こう!』」

ドルザベール「このコーナーは、司会者に寄せられた様々な質問へ、司会者が答えていくというものだ」

タナトス「最初のお便りは……フェイト「T」ハラウオンの中に隠れ住んでいる、PN:ファンガイマジン様。……フェイト「T」ハラウオンよ、早急な身体検査をオススメするぞ? それも、なるべく精密な」

海東「内容は、と。え、自分の契約者（本人は知らず）のフェイト・T・ハラオウンの真・ソニックフォームは25歳では有りかどうか。PS・Vividではすでに手遅れ……………」だそうだよ」

ドルザベール「……………別にいいのではないか？」

タナトス「だな。よくは知らんが、1期でのプレシアIIテストロツサも、それ以上の歳で結構際どい服を着ていたようだ。それを考えれば、25歳のフェイトがああジャケツトを着用していたとしてもなんら問題はあるまい」

ユウ「まあ、そういうことになるのか？」

タナトス「それに戦闘という点においても、真ソニックフォームの形態は効率的であるといえるだろう」

ドルザベール「ふむ、確かにな」

ミツキ「そうかなあ？ 確かに動き易いとは思うけど……………ちょっと露出多すぎじゃ？」

タナトス「なら訊くが、新体操や水泳の選手は変態なのか？」

ミツキ「そ、それは……………」

ユウ「さすがにそこまでは言えないけどよ……………（汗）」

タナトス「新体操や水泳のあれも、元はといえば動き易さを追及し

た結果だ。真ソニックフォームも確かに露出は多いが、その分服に拘束されることがなくなつて体の伸びもよくなる。それに、体にぴつちりと吸い付くあの格好だからこそ、動くのに邪魔な部分が引き締められて、さらに動き易くなるというわけだ。空気や水の抵抗も考えて設計されているだろう」

ミツキ「胸とか？」

ドルザベール「……………君は随分と直球だな」

ユウ「姉に圧倒的に足りてないものですから」

ミツキ「今何か言つた？（怒）」

ユウ「いや、別に」

海東「まあ、確かにそれは言えるよね。そういうわけで司会陣の見解は、あくまでも戦装束としてはあり、となつたよ。分かつてくれたかい？」

ユウ「じゃあ、服としては？」

ドルザベール「……………」

タナトス「……………」

海東「……………年上好きには需要あるよ。きっと」

ユウ「どこにいるんだよ、そんなの……………」

海東「案外近くにいるものだよ？ パソコン画面の向こう側とか」

ミツキ「それって、もしかして……………（苦笑）」

ユウ「まあ……………そういうことだよな」

海東「さて、次のお便り……………と、いきたいところなんだけどね」

ユウ「どうかしたのか？」

海東「いやあ、今までのお便りを出すと言っただけで、よく見たら土や夏メロン、エミリア宛に来たものばかりだね」

ミツキ「ちょっ!」

ユウ「じゃあさっきの選別タイムは何だったんだよ!」

海東「何だったんだらうね?」

ユウ「い、いや、俺に訊かれても……………（汗）」

海東「というわけで! 今回の陽だまりスタジオはこの辺で終わり
!」

ユウ&ミツキ「ええっ!?!」

ドルザベール「ふむ、これで漸く帰れるな」

タナトス「そのようだ。もう呼ばれないことを祈るのみだな」

ドルザベール「全くだ」

ユウ「え、ちょ、何であんたら帰る用意してるわけ!?!」

海東「帰るからに決まってるだろ? 何を解りきつたことを……」

ユウ「そういう問題じゃねえだろ!」

海東「じゃ、さよなら」

ドルザベール「ではな」

タナトス「ふん」

銀のオーロラ襲来。

ユウ「……………行っちゃまったな」

ミツキ「……………うん」

ユウ「……………俺達も帰るか……………」

ミツキ「……………そうだね。あ、その前に番宣」

ユウ「何で俺が……………。えー、俺達が出ているのは魔法少女リリカルなのはStrikerSの影の守護者という作品だ。マイペースな俺ことオリ主のユウとサエグサが、機動六課に入ってあれこれするお話だ。乞うご期待!……………これでいいか?」

ミツキ「OKなんじゃない? それじゃ」

ユウ「またなー」

……

……

……

リオス（カメラ）「ね、ねえ作者さん。スタジオ、誰もいなくなっちゃったんだけど……」

プロデューサー

神崎「ま、まさかこんな展開になるとは……。僕も予想外だったぜ

（汗）」

士（照明）「で？ どうすんだ？」

神崎「……じゃありオス、代わりに募集要項よろしく」

リオス「……ええー……。えーと、以下が募集要項です」

募集要項です。

まず、ゲスト出演条件。

書くネタの関係上、15話以上進んでいる作品で、それなりに出番もキャラの位置づけも決定しているキャラクターでお願いします。ネタにしにくいです。最後に、リリカルなのは、仮面ライダー作品、もしくはオリジナル作品のキャラであること。それ以外は今のところ受け付けておりません。どうしても、という方はメッセージ

までお申し出下さい。知っている作品の2次であれば、出せるかもしれないので。

あとは特に基準はありませんので、好きなキャラをどうぞ。

続いて、上記にも書きましたお便りコーナー。

送るのは、メッセージまで。住所（勿論架空。ネタでも構いません。その方が雰囲気出ますしね）、ペンネーム、送るコーナーのタイトルとその内容を書いて、神崎のメッセージボックスまでお願いします。

やってほしいコーナー、出してほしいネタCM、出して欲しい司会者も大募集です。どしどしご応募くださいませ！

それでは。たくさんのご応募、お待ちしております

リオス「皆様、宜しくお願い致します」

神崎「……………思っただけどさ。この番組のコーナーって、テレビの癖に視覚に訴えるコーナーが皆無だよな？」

士「まあ、確かにな」

神崎「そこで！ 皆様から新たなコーナーを募集したいと重いです！ これぞバラエティ！ だと思うものを書いて、メッセージまで送ってね！」

リオス「お待ちしてます！」

士「じゃ、また次回まで」

神崎&リオス「お楽しみに」

次回の司会は、魔法少女リリカルなのはStriker S ー氷翼の天使ーより、リオスIIコーネルド、エミリア、レーネの氷翼の天使3人組を予定しています。

それでは、次回もお楽しみに

第3回 ライバルキャラだらけってこんなにギャグし辛いのか……………(滝汗)

士「この放送は、GONAMIと、

(氷) 凍練弩氷菓

(強) 戸鍊次亜剣術スクール

(旅) 仮面の破壊者

ご覧の スポンサーの提供で、お送りしたぞ」

第4回 男の娘とガキと無口っ子

リオス「ええと、今回は僕達だよね？」

レーネ「そうだねー」

エミリア「……………」

リオス「……………ええと、エミリア？ 質問とかあったら、ちゃんと答えるんだよ？」

エミリア「……………（こくん）」

レーネ「あはは……………大丈夫だよ、きっと。ラモン先生のところでもどうにかなったし」

リオス「だといいいんだけど……………」

エミリア「……………どうでもいい」

リオス&レーネ「……………（滝汗）」

上の下りが解らない方は、ラモン先生著、リリカルマジカルとあ新らじお、最新話をご参照下さい。

レーネ「というわけで、もう1つの企画作品も書かずに何やってるの！ 間抜けな作者さんが送るテレビ放送企画第4話！ 始まるぞますよ！」

リオス「いくでがんす」

エミリア「ふんがー」

ゲスト「いや、真面目に始めろよ、お前ら！」

第4回 男の娘とガキと無口っ子

レーネ「はい、というわけで、最初は『言わせてみよう、あのセリフ！』のコーナーへ送られてきた、相変わらずどこに住んでるの！
？ 聖王のゆりかご内の駆動炉にお住まいの、PN：検体番号10032さんの投稿を使ってみました
みたんだけど……このタイトル、私に喧嘩売ってんの？（怒）」

リオス「ど、どうどう！ 抑えて抑えて！」

エミリア「……………静かに、して」

レーネ「あんたはこのタイトル見てムカつかないわけ！？ 公然と男の娘扱いされてるんだよ!？」

リオス「いや、僕の場合、今更って感じもするし……………」

レーネ「あ、あんたも苦労してるのね……………(汗)」

リオス「う、うん(ここで「君も今更だよな?」とでも言ったら怒られそうだな、黙っとこ)」

レーネ「さて、今日はお便り来てるわけ?」

リオス「それがあんまり来てないんだよね。とりあえず紹介はしていくけど。やることなくしたら別のことするかもしれない」

レーネ「ふーん、そう」

エミリア「……………ゲスト、入場」

リオス「え、もう!?!」

レーネ「ていうか、どうしてこの子が仕切ってるわけ?(汗)」

????「な、なあ。もう出てきていいか?」

！」

スバル「陽だまりスタジオっ」

リオス「うう、酷い目に遭った……………」

ハヤト「す、すまん(汗)」

レーネ「全く、スタジオもそんなに広くないんだから、暴れないの！ほら、さっさとお便りコーナー行く！」

リオス「おっと、そうだった。さて、じゃあ最初のコーナーいきましよう！最初はコレ！『司会者に訊こう！』」

レーネ「このコーナーは、司会者に寄せられた質問を、司会者が嘘偽りなく答えていく、というものだね」

ハヤト「最初のお便りはこれだ。ベントラ内、光写真館にお住まいの、PN：ヴィランズさん。……………よく生きていられるな？ えー、『ディケイドやディエンドのように、オーロラで好きな場所に行けるとしたら、どこへ行きたいですか？』だと」

リオス「そうですねえ……………。僕はとりあえず、仮面ライダーの世界へ行ってみたいですかね」

ハヤト「カブト、もしくはファイズの世界へ行ってストライクフォームで共演するんですね、解ります」

リオス「なんで解ったの!？」

レーネ「誰でも解るでしょ、それは(汗) 私は……………どこだろ？ やっぱりガンダム00かな？ ネーナって人と気が合いそうなんだよねー」

ハヤト「そりゃそうだろ、元ネタなんだから」

レーネ「そうだったけ？」

リオス「エミリアは？」

エミリア「……………ぶんぶく茶釜」

3人「……………は？」

エミリア「ぶんぶく茶釜」

ハヤト「……………リオス？」

リオス「……………ごめん、情操教育しようと思って童話を片っ端から読ませてたら、いつの間にかはまってたみたいで……………」

ハヤト「いや、だからってそのチヨイスはないだろ！ 普通女の子なら、白雪姫とか、シンデレラとか、そんな童話だろ、与えるにしても！」

リオス「仕方ないだろー！ 本屋で買うのも結構恥ずかしいんだぞー……………！！！！！！」

ハヤト「恥ずかしかつてて親が務まるかー……………！！！！！！」

リオス「僕は親じゃなああああああああ！」

エミリア「……………狸さん、可愛い」

リオス「うっ、可愛い……………！！！！！！」

ハヤト「親馬鹿め」

レーネ「その点は、ハヤトも人のこと言えないと思うけど」

ハヤト「レーネうっさい」

レーネ「さて、気を取り直して次いこ！」

リオス「そ、そうだね。えー、では次のコーナー！ 冒頭でもやりました、『言わせてみよう、あのセリフ！』」

ハヤト「このコーナーは、視聴者から寄せられた、司会者に言っ
てほしいセリフを実際に司会者が言う、ってやつだったか」

エミリア「……………（こくん）」

リオス「最初のお便りはこちらです。聖王のゆりかご内の駆動炉に
お住まいの検体番号10032さん。いつもお便り感謝です！。お
つ、これは僕とレーネで言う感じだね」

レーネ「そう？　じゃ、ぱっぱと済ませちゃおう？」

エミリア「賛成」

リオス「では、いきます」

レーネ「リオス、足りない！足りないぞお！！」

リオス「ぐうっ！？」

レーネ「お前に足りない物・・・それは！情熱思想理念頭脳気品優
雅さ勤勉さ！！そして何よりもっ！！速さが足りない！！！！」

レーネ「ぜーはー、ぜーはー……………だ、誰よ、こんな体力使うセリ

エミリア「……………（スッ）」

レーネ「はい？」

ハヤト「冗談のつもりで言っただけなんだが……………まさか本当に出てくるとは（汗）」

リオス「さ、さて。ここでCM入りま〜す！」

なのは「タオ！」

リオス「ビタ！」

なのは&リオス「愛情一本、タオビタドリンク！……………と、シルバ
ー！」

士「パパやママに宣言しよう」

ヴィヴィオ「ピーマンを食べられるようになる！」

なのは「出来ますか？」

ヴィヴィオ「……………はい」

キャロ「にんじんを食べられるようになります！」

フェイト「嬉しいです」

エリオ「お風呂に入ろうといわれるのを、断れるようになりたいです……………」

リオス「せ、切実だな（汗）」

士「頑張れ！」

皆なら頑張れる！ ボロナミンG！

ハヤト「ラブラブだねえ、リオス……………？」

ハヤト「そうか、解った。ええと、俺が出演しているのは、魔法少女リリカルなのはLEGEND 〜伝説再び 漆黒の閃光〜という作品だ。転生者である俺、影月ハヤトが、リリカルなのはStickersの世界で活躍するお話。オリジナル武器やチート能力を使つて、大暴れするぜ！ 最近は結婚して新たな敵が。ぜひ見てくれよ！」

リオス「はい、どうも〜！ それでは、ここでゲストやお便りの応募要項を。レーネ！」

レーネ「はいはい 以下のようになってます！」

募集要項です。

まず、ゲスト出演条件。

書くネタの関係上、15話以上進んでいる作品で、それなりに出番もキャラの位置づけも決定しているキャラクターでお願いします。ネタにしにくいです。最後に、リリカルなのは、仮面ライダー作品、もしくはオリジナル作品のキャラであること。それ以外は今のところ受け付けておりません。どうしても、という方はメッセージまでお申し出下さい。知っている作品の2次であれば、出せるかもしれませんので。

あとは特に基準はありませんので、好きなキャラをどうぞ。

続いて、上記にも書きましたお便りコーナー。

送るのは、メッセージまで。住所（勿論架空。ネタでも構いません。その方が雰囲気出ますしね）、ペンネーム、送るコーナーのタイトル

ルとその内容を書いて、神崎のメッセージボックスまでお願いします。

やってほしいコーナー、出してほしいネタCM、出して欲しい司会者も大募集です。どしどしご応募くださいませ！

それでは。たくさんのご応募、お待ちしております

レーネ「こんな感じだね」

リオス「ふう、これで終わりですか」

ハヤト「なんか早すぎた気もしたが、楽しかったぜ」

レーネ「ありがとう！ そっちも頑張ってたよね、ハヤト！」

ハヤト「おう！」

リオス「それでは、本日はこの辺りで。ではでは、」

ハヤト「次回も、」

一同「お楽しみに！」

ハヤト「リオス？ これ以上本編でフェイトを傷つけたら………どうなるか解ってるよな？（黒笑）」

リオス「最後の最後で怖い言葉残さないてくださいよ！！？」

次回の司会は、仮面ライダーディケイドAfter the Movie Warより、門矢士、光夏海、小野寺ユウスケ、
色^{しき}彩^{さい}香^かを予定しています。

それでは、次回もお楽しみに

第4回 男の娘とガキと無口っ子(後書き)

レーネ「この放送は、GONAMIと、

(氷) 凍練弩氷菓

(強) 戸鍊次亜剣術スクール

(旅) 仮面の破壊者

「ご覧のスポンサーの提供で、お送りしたよー」

第5回 やっぱり暑い夏はラムネが合っと思っんだ

士「さて。今回は俺達、か」

夏海「仮面ライダー週ですね」

ユウスケ「ふう、漸く俺もこの番組出れるんだな……………って、どうしたの彩香ちゃん？」

彩香「むく、ゆうくん。彩香は気付いてしまったのだよ」

夏海「気付いたって……………何にですか？」

彩香「むふーん、聞きたい、なっちゃん？」

夏海「は、はい」

士「勿体ぶるな。さっさと試ってみろ」

彩香「うん。いやー、この番組ってさー、TV番組企画という名の作者さんの宣伝番組だよなっ」

夏海&ユウスケ「それは言わないでっ!?(口塞ぎ)」

彩香「みゅっ!?!」

士「……………先が思いやられるな」

第5回 やっぱり暑い夏はラムネが合うと思うんだ

士「……………もはや呆れを通り越して意味不明だな」

ユウスケ「確かにラムネは美味いけど……………」

彩香「つーかーさー……………？（淒くキラキラした目で）」

士「強請^{ねだ}られたって買ってはやらんぞ」

彩香「うう〜〜〜、ケチツ！」

ユウスケ「あはは（汗） 彩香ちゃん、俺が買ってあげるから、今のところは……………」

彩香「ほんとっ!? ゆーくん大好きっ」

ユウスケ「うわあっ!?!」

士「おいお前ら、いい加減じゃれるのはやめておけ。始まるぞ」

彩香「ぶーっ、ケチな士の言うことなんて聞かないもんね!」

ユウスケ「彩香ちゃん、でもこのままじゃ始められないし……戻る?」

彩香「はい」

士「……………何なんだ、この温度差は」

夏海「士君が怖いんじゃないですか?」

士「どの口がそれを言う」

夏海「つかーさあーくーん? (親指構え)」

士「……………えーと、最初のお便りは……………」

ゲスト「いや、紹介してくださいよ……………」

夏海「はい、というわけで今回のゲスト！ ヴィランズ先生監修、『仮面ライダーヴィケイド』より。回るのはライダーと怪人の共存する世界！ 世界の悪役とは俺のことだ！ 種導^{しゅどう} 長さん^{ながさん}です！」

長「どうもです。しかし、なんだか今回は普通の紹介でしたね。あ、これお土産のケーキです」

士「ご苦労。そりゃ、お前の作品じゃそれほどはっちゃけて言うような要素がねえだろ」

ユウスケ「だよー。しかし、怪人と共存する世界かあ。面白いコンセプトだよな」

夏海「そうですね。怪人は倒すもの、というイメージが広がっているせいか、ブレイドのジョーカーやキバ、ファイズでもない限りそういったテーマで描かれることはあまりありませんし」

士「そうか？ うちの作者はそうでもないみたいだけどな」

彩香「どゆこと？」

士「うちの作者が書いてる俺達の物語…… After the Movie Warだが、隠れたテーマとして？ いかにも悪の仮面ライダーが描けるか？ ということらしい」

ユウスケ「それってどういうことだ？」

士「つまり、『悪なのは怪人だけじゃない。人間側からだって悪人は出るし、それは当然ライダーだって同じこと。悪のライダーだっ

て出るだろうし、逆に正義の怪人だって現れるだろう』ってことだ」
長「なるほど」

ユウスケ「だからラスボスになるのは、ライダーが多いんだな」

夏海「納得ですね。でも最初のカブトの世界はパラサイトワームに操られた健斗君、Wの世界ではヒプノティズムドーパントに操られた六道。まだキバの世界は終わっていませんけど、この2つの世界を見る限りでは怪人だともとれるんですけど」

士「もう一つ、根本設定として？ポジ世界はショッカーの浸食を受けている？という設定があるからな。怪人が介入しているのも仕方ないことだろ。ま、心の闇につけこんだのは間違いないだろう？」

ユウスケ「まあ、そうなるかな。健斗君は『天道のように強くなりたい』、六道は『罪を犯したものに死の罰を』だったね」

夏海「そうですね」

士「あいつらには相当苦労したぜ……っと、そろそろお便りにいくか。最初のコーナーはこれだ。『司会者に訊こう！』」

夏海「このコーナーは、司会者宛に届いた質問へ司会者が答えるというものです」

彩香「最初のお便りは彩香がいつちやうよ〜　え〜と、フェイトⅡⅡⅡハラウオンの中に隠れ住んでいる、PN：ファンゲイマジンさん。……狭くないのかなあ？『仮面ライダーと魔導師、どっちが強い？』PS・あと五代雄介以外のクウガはクウガゴウラムに

なれ』だって〜」

一同「仮面ライダー」

彩香「あはは、即答だね〜」

長「いや、だって……………ねえ？（汗）」

士「当然だろ」

夏海「一応、理由は？」

長「魔導師みたいに飛べないですけど、クロックアップ出来ますし」

士「高速で移動して、首元に剣突きつけりゃ、それで詰みだ」

ユウスケ「でも、あっちにも高速移動できる奴いるだろ。ほら、フ
エイトさん、だっけ？」

士「出来ても、たぶんクロックアップの敵じゃないだろ。作者がど
つかのサイトで見たクロックアップのデータどおりなら、な」

夏海「確か、1秒に1万発のパンチが打てるスピード……………でしたっ
け」

長「は、半端ないですね（汗）」

彩香「でもさー士、クロックアップ使えないライダーはどうなんの
？」

士「……………気合だ」

ユウスケ「うわー、何その無茶振り」

士「五月蠅い」

夏海「ていうか、勝てるわけありませんよね？ あちらは空飛んでますし、それでさらに砲撃なんて撃たれたら……………」

長「洒落になりませんね（汗）」

ユウスケ「ほんとだね（滝汗）……………あ、今思ったんだけどさ、俺クウガの場合、緑のクウガになって、気付かれないほど遠距離から狙い撃ちすれば……………」

彩香「でもさゆーくん。私も作者もよく知らないんだけどー、確かなのはA'sで、かなりの距離からなのはが砲撃で狙い撃ちするシーンがあつたみたいじゃん？」

ユウスケ「そ、そうなの!？」

士「どちらの射程距離が長いかが解らなければ判断は難しいが……………ペガサスフォームも確かに対抗策にはなりそうだな」

長「インビジブルとかもありですね」

彩香「うーん、あれはせこいよねー」

夏海「ていうか、なんだかいつの間にかどっちが強いかわなくて、魔導師への対抗策になつてような……………」

士「軌道修正するか。さて、じゃあ次の質問だ」

ユウスケ「次は俺が読むよ。えーと、機動六課内のロストログニア保
管庫にお住まいの、検体番号10032さん。……………大丈夫なのか
な？」

士「絶対怪しげな薬品とか変な機械とか置いてあるだろ」

夏海「あはは、そんなわけ……………ないとはつきり言い切れないのが
怖いですね（汗）」

長「皆さん、それより質問を……………」

ユウスケ「おっと、そうだった。ええと、『皆さんは“リリカルな
のは”の世界をご存知ですか？もし知っているのなら質問なん
ですが、向こうの世界に行ったらどんな魔法を使ってみたいですか？
だつてさ」

士「結論から言えば、知ってはいるな。ただ、そういう世界がある
ということと、大まかにどんな世界かを知っているだけで、何があ
るのかまでは知らないが」

長「で、皆さんどんなの使ってみたいですか？」

ユウスケ「俺は……………ソニックムーヴかな。一回でいいからクロック
アップ気分を味わってみたかったんだよ！」

士「さっきも言ったが、クロックアップよりは遅いと思うぞ？」

ユウスケ「いいんだよ、気分なんだから！」

彩香「あはは、ゆうくんらしいねー　私はねえ、フライヤーフィンかなー」

夏海「あ、私もそれ思いました。可愛いですよね、あれ！」

彩香「むふふー、解ってるじゃん夏海！」

夏海「勿論です！　女の子ですから！」

彩香「だよねだよねー　長は？」

長「そうだな……………フェイクシルエツトかな。実戦で十分使えるだろうし。で、破壊者さんは？」

士「俺か？　俺は、そうだな。やはりスターライトブレイカーか」

ユウスケ「それは……………やめた方がいいんじゃないか？」

士「なんでだよ？」

夏海「よく考えてみるよ。士がああ砲撃を手にしてしまったらっ！　その瞬間！　悪魔と魔王が1つになった超人が誕生してしまうだろう！……………って、どうかしたの、皆？」

彩香「……………（そろー）」

夏海「ゆ、ユウスケ……………」

ユウスケ「え？ 何、何？」

長「後ろ……………（滝汗）」

ユウスケ「え？ 後ろって、何…が……………」

????「ふん。誰が魔王だって？ もう1回言ってくれるかなあ……………」

ユウスケ「い、いや、それはその……………」

????「ねえ、もう1回言ってくれないかな？ 誰が魔王だって……………」

ユウスケ「いや、だから……………み、皆助け……………って、いない！？ 逃げたのか！？ いつの間に……………」

????「さあ。あつちで頭冷やそっか……………」

ユウスケ「ひいやあああああああああ！」

????「スターライト、ブレイカアアアアアアア……………」

大変お見苦しい映像となっております。しばらくお待ち下さい

ユウスケ「はあ、はあ……………死ぬかと思った」

士「そのまま死んでろ」

ユウスケ「酷っ！？ ていうか死んでないって!!」

長「よく生きていられたね(汗) スタジオは半壊して、日の光が入ってるっていうのに……………」

彩香「あははー、ゴキブリ並のセイメイリョク、ってやつだね」

ユウスケ「……………なんだろう、彩香ちゃんが言うといマイチ説得力な
いような……………」

士「殺しても生きてそうだからな」

彩香「いやー、そんな褒められると照れちゃうよ」

長「いや、褒めてないから(汗)」

シユラウド「壁にぶち当たってるのね……………」

照井「壁……………」

『ACCEL! MAXIMUM DRIVE!』

アクセル「はあああああああああつ!」

チョンツ……………。

ウルトラマン「……………?」

プチッ。

照井「あつ」

照井「……………俺に質問するな」

缶コービーはユウビ!

ユウスケ「エコカー減税対象車って……………」

ワタル「その説明は、私が」

次狼「子供店長！」

ワタル「ドヨダでは、エコカー対象車がこんなにたくさん！
お好きな車をお選びいただけます！」

夏海「こらっ」

彩香「だめでしょ、こんなにご飯残しちゃー！」

ワタル「ご飯も選べたらいいのに……………」

エコカーはドヨダのお店へ！

士「ゼエ、ゼエ……………何やってんだ、あいつら……………」（復活
した）

ユウスケ「ていうか、最初のCMって解り辛いな」

彩香「作者さんもうる覚えだから、台詞が曖昧だしね。地の文がないから展開も伝わりにくいしさ」

夏海「解る方がいたら奇跡ですね。さて、こんな感じで本日もやっ
てまいりましたが、どうでしょう?」

長「なかなか楽しい時間でした。ありがとうございます」

ユウスケ「ぜひ、また遊びに来てくれよな!」

長「ええ、いつかまた」

夏海「それでは長さん、番宣お願いします!」

長「了解。俺が出ている作品は、『仮面ライダーヴィケイド』とい
う作品です。世界の悪役、ヴィケイドとなった俺、種導 長が、怪
人と仮面ライダーの共存する世界を回り、救っていくお話。様々な
オリジナルカードも登場! まだ読んでない人は、ぜひ読んでくだ
さい!」

土「はい、ご苦労さん。続いて、この番組への応募要項だ」

募集要項です。

まず、ゲスト出演条件。

書くネタの関係上、15話以上進んでいる作品で、それなりに出番

もキャラの位置づけも決定しているキャラクターでお願いします。ネタにしにくいですし。最後に、リリカルなのは、仮面ライダー作品、もしくはオリジナル作品のキャラであること。それ以外は今のところ受け付けておりません。どうしても、という方はメッセージまでお申し出下さい。知っている作品の2次であれば、出せるかもしれないので。

あとは特に基準はありませんので、好きなキャラをどうぞ。

続いて、上記にも書きましたお便りコーナー。

送るのは、メッセージまで。住所（勿論架空。ネタでも構いません。その方が雰囲気出ますしね）、ペンネーム、送るコーナーのタイトルとその内容を書いて、神崎のメッセージボックスまでお願いします。

やってほしいコーナー、出してほしいネタCM、出して欲しい司会者も大募集です。どしどしご応募くださいませ！

それでは。たくさんのご応募、お待ちしております

士」というわけだ。ま、よろしく頼む」

夏海「そして次回からは！ 新コーナースタート！」

ユウスケ「題して、『見せます魅せます！ やってみなさいこのミッション！』」

彩香「へー。どんなの？」

士「簡単に言えば、俺達司会者にお題をぶつけ、番組内で出来るものならそれをやってみる、というものだな」

夏海「そのとおりです。ただし、このスタジオ内で出来るもの限定です。その辺ご了承ください」

ユウスケ「さて、それではお時間となりました！」

夏海「最近遅れがちの企画作品ですが、どうか見捨てないでやってください」

彩香「それじゃ、また次回を」

一同「お楽しみに！」

次回の司会は、SPIRITUAL ARMSより、マクスIIトレンジア、レインシアIIリIIグランヴァール、ファインIIカインツ、リユネIIバルカートンを予定しています。

それでは、次回もお楽しみに

第5回 やっぱり暑い夏はラムネが合つと思つんだ(後書き)

彩香「この放送は、GONAMIと、

(氷) 凍練弩氷菓

(強) 戸鍊次亜剣術スクール

(旅) 仮面の破壊者

「ご覧のスポンサーの提供で、お送りしました」

第6回 猛暑……………溶ける……………(滝汗)

マクス「さてと、今日は俺たちのようだな」

ファイン「そうだねー。僕も漸く出られるよー」

リュネ「随分かかったわねえ。さ、今日も張り切っていくわよ!」

レインシア「はい」

マクス「気合入ってるな。……………ん、何々、カンペ? え、何、これを言え? ネタで? あー、はいはい、了解だ(ひそひそ)」

レインシア「あ、あの一……………」

ファイン「どうかしたの、マクス?」

マクス「あ? いや、なんでもねえぜ?」

リュネ「そう。それじゃ、始めましょ」

マクス「そうだな。それじゃ、俺達宛てのネタが全くなって始めようにも始められない第6回、始まり始まりー(ニヤリ)」

一同「……………えっ?」

第6回 猛暑……………溶ける……………（滝汗）

リオス「……………と、いうわけで、急遽メンバーを入れ替えました。どうも、たとえ何度生まれ変わっても……………必ず同じ道を選ぶ！ リオスと！」

レーネ「あはははははっ、もーたまんないっ！ レーネと！」

エミリア「……………時は戻らない。それが自然の摂理。エミリア」

リオス「の、氷翼の天使組で、お送りします」

レーネ「さて、鮮血の刻印先生からの提供でのっけからネタやつちやったけど……………大丈夫？」

リオス「大丈夫なんじゃない？ ティ ズもガ ダム〇〇も、それ

なりに知名度高いし。しかし、突然呼び出されちゃって、今回は参ったよ」

レーネ「仕方ないけどねー。今週のお便り、私達………ていうか、リオス関連しか来てなかったみたいだし」

リオス「え、僕!？」

エミリア「天使、凄い」

リオス「ああ、うん、ありがとうエミリア。しかしなんでまた………」

レーネ「先週新コーナーがスタートしたでしょ？ その関連のお便りが届いてるの(ニヤリ)」

リオス「………今の冷笑の理由を事細かに説明していただきたいのは山々だけど。ゲストを待たせるのもまずいしね。さくつとやつちやいますか」

レーネ「そうしましょー」

エミリア「しましょー」

リオス「それでは本日のゲスト、この方です！ どうぞっ！」

優「ど〜も」

レーネ「……………(ざっ)」

エミリア「……………(ざっ)」

リオス「えー、本日のゲスト。A r i s h i a 先生監修、『魔法少女リリカル……………なんとか!』より、自他共に認める女顔! 女どころか男にもフラグを立ててしまった第2のフラグ大魔王! 暁 優 さんです!」

優「俺は認めてないっての! ていうか、お前も人のこと言えない だろ!」

リオス「僕? 僕はほら、もうある程度諦めてるし……………(遠い目)」

優「……………すまん。お互い苦労してるんだな」

リオス「解ってくれる!?!」

優「勿論だ!」

ひしっ!

レーネ「おおー、男の娘同士の友情だー(そらしっ)」

エミリア「……………仲、いい(そらしっ)」

リオス「あー、あー、どうでもいいけど、どうしてさっきから優君のこ

と直視しようとしはないの？」

レーネ「決まってるじゃない。フラグ回避のためよ」

エミリア「……………（こくこく）」

優「た、他作品のヒロインにまでフラグ立てるほど鬼畜じゃないっての！」

リオス「それ、フィルに物凄く失礼なこと言ってるよ、優君（汗）」

優「へ？ 何で？ ていうか、フィルって誰？」

リオス「アルフォンス先生監修、魔法少女リリカルなのはStrikers ～Remember my heart～の主人公だよ。この番組にもゲストとして来てくれたんだ（第1回参照）」

優「そうか。で、そいつ、他作品のキャラにも手出してんの？」

レーネ「そ。既にエミリアにもフラグ作成済みよ（そらしっ）」

エミリア「……………ぽっ／／／／／／（そらしっ）」 本編での出来事を思い出している

優「そ、そうか。それは失礼なことを言ったな。すまん」

リオス「いや、今まさに優君がその状態になるかもしれない瀬戸際だから。というわけで、今日はこんな感じで進めてくから、どうか勘弁して（汗）」

レーネ「ごめんねー（そらしっ）」

エミリア「ねー（そらしっ）」

優「……………なんだろう、泣きたくなってきた」

リオス「自分のフラグ作成能力に？」

優「違っつっの！……！」

イリア「陽だまりスタジオ！」

レーネ「さあて、早速最初のお便りに行くわよ」

リオス「本日は新コーナー、『見せます魅せます！ やってみなさんこのミッション！』を通してお送りしたいと思います」

優「エミリアちゃん、そこはもうちょっと真っ直ぐ啜えないと……」

エミリア「はりふぁふぁー（訳：ありがとう）」

リオス「優君まで!？」

レーネ「ほらリオス! さっさと腹を決めなさい! やらないと話が進まないでしょうがっ!」

リオス「うううう……わ、解ったよ。はむっ」

レーネ「それでは、スタート」

リオス「（こうなったら自棄だ!）……かりかりかり……」

エミリア「はむはむ……」

優「リオス、ごめん……」

レーネ「おおお、これは順調に短く」だめ……」

リオス「ぐはっ!？」

エミリア「はうっ?」

優「な、何だ?」

なのは「だめったらだめっ!」

／／／／／

2人退出。

レーネ「ふう。漸く行ったか」

優「ごり押ししたな……………」

レーネ「こうでもしなきゃ、永遠に進展なんかしないわよ、あの2人」

優「？ 進展って、何が？」

レーネ「……………あー、そうでした。アンタも大概鈍感だったわね」

エミリア「皆……………鈍感」

優「????」

レーネ「はあ。同情するわよ、ラバースの皆。さて、じゃあ次のお便りいくわよ。八神家の風呂の壁の中にお住まいの……………って、チヨットマテ」

優「不審者！ 変質者がここにいますよおおおおお！」

エミリア「……………はい、電話」

レーネ「ありがと、エミリア。もしもし、警察ですか？ ええ、はい、そうです。ええ、宜しくお願ひしますー」

優「これで悪は滅びたな……………」

レーネ「そうね。けど、変質者といえどこの番組の視聴者。せめて、このお便りだけでも読みましょうか」

優「そうだな。えー、じゃあ気を取り直して、と。八神家の壁の中にお住まいの、PN：ロリコンで何が悪い！ロリコンと言う名の紳士だby kei - - kuma・Tさんより。『リオスを召喚。女体化＋幼児化』ようじよもしくは司会者の誰かが仮面ライダーの何かに変身』だそうだ」

レーネ「うーん、前者をやってみたいところではあるんだけど………肝心の本人がいないんじゃないかねえ」

優「ていうか遅いな。まだやってるのか？」

レーネ「ちょっと覗いてみましょう」

優「勝手にいいのかな……………」

レーネ「いいいいの。それじゃ、オープン」

なのは『ひ、ひおふふん。もうあとひよっほひかはいよ……………（り、リオス君。もうあとちょっとしかないよ……………）』

リオス『ほ、ほうはね。ひゃあ、ほふがはなふよ（そ、そうだね。じゃあ、僕が放すよ）』

なのは「え、はなひやうの………？（え、放しちゃうの………？）
『 凄くうるうるした目で

リオス「はうっ……………／／／／／／／／／／／／／／／／／／／

なのは「ねえ……………」 上目遣い追加

リオス「うううう……………／／／／／／／／／／／／／／／／／／／
よ。いいんはね？（わ、解ったよ。いいんだね？） 『

なのは「……………ひ、ひいよ／／／／／／／／／／／／／／／／／／／
よ) 『

リオス「んっ……………」

なのは「んぶう……………」

レーネ「ストップストップストップつづつづつづつづつづつづつづつづつづつ／
／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／

優「こ、これは、想像以上だった……………」

エミリア「はう……………／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／

レーネ「リオスとなのは、なんて恐ろしい子……………！」

優「じ、じゃあ、最初のは保留にして、2番目だけやったらどうだ
?」

レーネ「……………そうするしかなさそうね。それじゃ、2番目に行く
けど。アンタ、何にする?」

優「そうだな、これなんかいいんじゃないか?」

レーネ「それよりは、これの方が……………。あ、今の内にCM入りま
す!」

〈 燃烧系、燃烧系、アミノ式!

なのは「はい、訓練場1000周!」

〈 燃烧系、燃烧系、アミノ式!

なのは「まだまだ、空中380回回転!」

〈 こんな運動したくても!

フォワード隊「無理っ!」

燃焼系！ HOHOHO、アミノ式！

ヨントリー！

なのは「い、いくら私でもあんなこと言わないよっ！」

優「おや、帰ってきたみたいだな」

レーネ「随分お楽しみだったみたいね？」

リオス「な、ナンノコトカナ？」

レーネ「惚けんじやないわよ。司会の仕事はまだあるっていうのに、そっちを放っておいてイチヤイチャと……。ちようどいいわ。このキバの力で肅正してあげるっ！」

ガブツ！

レーネ「変身ッ！」

リオス「ちょ、待って！ 僕今グロリアス持ってないんだから、って、うわあっ!？」

なのは「ね？（汗） それでは、応募要項の確認です」
募集要項です。

まず、ゲスト出演条件。

書くネタの関係上、15話以上進んでいる作品で、それなりに出番もキャラの位置づけも決定しているキャラクターでお願いします。ネタにしにくいです。最後に、リリカルなのは、仮面ライダー作品、もしくはオリジナル作品のキャラであること。それ以外は今のところ受け付けておりません。どうしても、という方はメッセージまでお申し出下さい。知っている作品の2次であれば、出せるかもしれないので。

あとは特に基準はありませんので、好きなキャラをどうぞ。

続いて、上記にも書きましたお便りコーナー。

送るのは、メッセージまで。住所（勿論架空。ネタでも構いません。その方が雰囲気出ますしね）、ペンネーム、送るコーナーのタイトルとその内容を書いて、神崎のメッセージボックスまでお願いします。

やってほしいコーナー、出してほしいネタCM、出して欲しい司会者も大募集です。どしどしご応募くださいませ！

それでは。たくさんのご応募、お待ちしております

なのは「宜しく願います」

優「あゝ、今日もこれで終わりかー」

なのは「まあまあ、また来ればいいよ。いつでも大歓迎だよ。」

優「ああ、その時はまたよろしく。」

なのは「うん。あ、これお土産ね。」

優「ありがとう。……………」『男の娘の生き方』、『同性愛を矯正する方法』、『歪んだ性癖を直す100の方法』……………」なんだ、この嫌がらせとしか思えないタイトルの本の数々は。」

なのは「だから、お土産。リオス君が一生懸命用意してたよ?。」

優「……………」リオスッ！ お前はいい奴だ！ 嫌がらせとか言ってほんとうごめん!！」

なのは「あはは……………。さて、それでは時間です。また次回お会いしましょう!！」

優&なのは「まったね……………!！」

エミリア「……………」ばいばい。」

次回の司会は、魔法少女リリカルなのはStriker S ～氷翼の天使～より、リオスIIコーネルド。仮面ライダーディケイドAfter the Movie Worldより、色彩香。SPIRITUAL ARMSより、リユネIIバルカートンを予定しています。

それでは、次回もお楽しみに

第6回 猛暑……………溶ける……………(滝汗)(後書き)

なのは「この放送は、GONAMIと、

(氷) 凍練弩氷菓

(強) 戸鍊次亜剣術スクール

(旅) 仮面の破壊者

ご覧の スポンサーの提供で、お送りしました」

第7回 マナーマナーと言ってるやつが、一番マナーが悪かったりする

リオス「なんか、今回は珍しい組み合わせだね？」

彩香「そだねー」

リュネ「私なんか初めてよ。もう、本当なら前回出れてたはずなのに……………」

リオス「あはは、ごめんね。なんか、SPIRITUAL ARM
Sってぶつちぎりで不人気らしくて……………」

リュネ「大丈夫よ。今に始まったことじゃないから……………（ズーン）」

彩香「あはは、ご愁傷様」

リオス「……………ま、まあ、そんなわけで！ 久しぶりに始めるよ！ 夏休みももう終わり！ これから新学期の始まりだ！ な、少し陰鬱な気分に入っている回……………！」

リュネ「……………思いつきり私情じゃない、それ」

第7回「マナーマナー」と言ってるやつが、一番マナーが悪かったりする」

リュネ「……………何これ？」

リオス「よくわかんないけど、最近外で明らかに交通法違反な車に出くわしたんだってさ」

彩香「うーん、それは問題だね」

リュネ「でもさあ、これって最近結構思ってることなんだけど、このテレビのタイトルって、作者のプライベート入りすぎてない？」

リオス「それは言っちゃだめだよ（汗） 全くもってそのとおりだけど……………」

リュネ「それもそっか。んじゃ、さっさとゲスト紹介にいきましょうか」

リオス「そうだね。それでは、本日のゲスト！ どうぞー！」

ルーク「ども〜！」

フェイト「うう、なんか緊張するなあ……………」

はやて「あはは、リラックスしいや〜」

リオス「はい、というわけで今回のゲスト！ 本編、魔法少女リリカルなのはStrikerS Lost Memoryが堂々の完結！ 我らがエロティック大統領こと、ルーク「リーゼンベルグ！そして、そんなルークとめでたく恋人に！ フェイト「T「ハラウオン！ そして最後！ 彼女だけは他作品からではなく、氷翼の天使からの出演だ！ 八神はやてこと、子狸！！」

はやて「……………ちょお待てや」

ルーク「いや〜、また呼んでくれて、嬉しい限りだよ」

はやて「いや、せやからちょお待っ……………」

フェイト「でも、私まで呼んでもらっちゃってよかったのかなあ？」

はやて「ちょ、話……………」

リユネ「いいんじゃない？ 別にオリキャラじゃなきゃいけない、なんて決まらないんだし」

はやて「あの……………」

リオス「そうそう。さて、それじゃあゲストも揃ったことだし、そろそろ本題に……………って、あれ？ どうしたの、はやて？」

はやて「ぐすん……………ええもんええもん。どーせ私なんて、影の薄い子狸ですよーだ」

リオス「あ、えと……………（汗）」

はやて「リオス君もルーク君も、皆私のこと無視しよって。ええやんええやん、あんたらなんか、1億人の女性の中に裸で放り込まれて鼻血で出血死したらええんや」

リオス「それどんな状況！？……………」

ルーク「しかも1億人……………。ミッドの中の女性集めても足りないですよ！ たぶん！……………」

彩香「あはは、さすが2人だねー」

リオス「……………彩香ちゃん。それはどう解釈すればいいのか20字以内くらいで説明してくれるかな？」

彩香「常にエロい方向に話が進む2人だからだよー」

ルーク「まさかの、言われたとおりの条件で回答だと！！？」

リオス「『』まで入れても20字だもんね（汗）」

リュネ「はいはい、そこまで。はやてもいつまでも不貞腐れてんじゃないわよ。さっさとお便りコーナー行くわよ」

フェイト「あ、あの、リュネ？　なんだか……怒ってない？」

リュネ「ゼーぜん怒ってないわよ？　初めての出演なのにちっとも前で目立ってないばかりか、会話にも満足に登場できてないからって、ぜえ〜んぜん怒ってないわよ〜〜〜」
(黒笑)

彩香以外の一同(ぜ、絶対怒ってる………/汗)

ルーク「じゃ、じゃあ、最初のコーナー行こうか!」

リオス「そ、そうだね!　さて、では本日最初………ていうか、本日はほぼこれしかコーナーはやりません!」
『言わせてみよう、あの台詞!』

彩香「えつとねー、このコーナーは、皆が送ってくれたお便りの台詞を、私達が言っちゃおー、って企画だよー」

リュネ「最初のお便りはこれよ。八神家の二階廊下の窓と棧の間にお住まいの、PN:デフォルトさん。挟まってる、挟まってる!」
(泣)

リオス「うわあ、想像したらなんか痛そう………」

ルーク「いや、案外ジェル状に自分の体を変形させて凌いでるとか………」

リュネ「ブラク Xじゃないんだから(汗)」

彩香「液体人間かぁ。面白そー」

リオス「いや、絶対違うでしょ、それ(汗) ていうかルーク、君も妙なこと言ってるよ」

ルーク「ごめん、つい……………」

リュネ「さあさあ、それじゃあ内容は……………っと。リオス、ご指名よ」

リオス「? 僕?」

リオス「僕は! なのはと!! 添い遂げる!!!」

ルーク「うはぁ、大胆発言w」

リオス「添いませんよ、遂げませんよおおおおお!?

なのは「り、リオス君……………」

リオス「ふひゃあぁっ!?……………な、なのは、いつの間にそこに!?!……………」

はやて「どつやら、あまりの恥ずかしさにリオス君の頭がショートしたみたいやなw」

フェイト「じゃあ、ルークと私が……………／／／／／／／／／／／／／／／／」

ルーク「……………で、フェイトさんは、さも自然な流れかのように俺とベッドインしようとししないで下さいよ！！ あ、袖引っ張らないで……………」

フェイト「ルーク、私と一緒に行くの、嫌……………？（涙目）」

ルーク「あ、いえ、その、そういうわけじゃ……………い、いきます／／／／／／／／／／／／」

フェイト「うん……………／／／／／／／／／／／／／／／／」

ルークとフェイトも退場。

はやて「……………マジで行きよった、あの2人……………（汗）」

なのは「いいなあ、フェイトちゃん……………」

はやて「あんなあ、なのはちゃん。アレは正直バカップルすぎるんやと思うぞ？ あとなのはちゃん、本音駄々漏れやから」

はやて「ついに、ここの桃色ムードがスタッフ席まで届きおつた……」

なのは「にゃはは、フェイトちゃんもルーク君も、ラブラブだもんね〜（苦笑）」

リユネ「なのは……それはアンタも十分人のこと言えないと思うんだけど（呆）」

彩香「さあ〜て、じゃあお次は彩香ちゃんがいつちやうよ〜！ 何が出るかな〜」

リユネ（何が出るって、これランダムじゃないんだけどなあ………
／苦笑）

彩香「これだつ！ え〜と、機動六課隊舎205号室にお住まいの、PN：シグナムの弟子さんより」

はやて「シグナム………弟子いたんか」

なのは「初耳だよね………」

彩香「え〜つと、これは台詞言う人が指定されてないね？」

なのは「じゃあ、適当に役決めて言っちゃおうよ」「

彩香「そだねー。では、どうぞっ」

リュネ『くおらポケガエルっ！！ 今日の出しアンタでしょ！？』

はやて『すっ、すみませんでありますっ！ ガン普拉作りに夢中になって、すっかり忘れてたであります！！』

リュネ『ふっん……………罰として、ガン普拉没収！！』

はやて『あゝっ！！ 我輩のガン普拉がっっ！！！』

リュネ「ケ ロ軍曹ね」

なのは「夏美さんとケロロ軍曹のワンシーンだね」

はやて「ていうか、配役おかしな！？なんで私がケロロ役なん！？」

彩香&リュネ&なのは「え？ 普通じゃない？」

はやて「……………あかん、挫けそうや。……………って、あれ？ あれっ
て、リオス君やないか？」

なのは「え！？」

リオス「……………」

リユネ「お帰り、リオス。案外早かったわね？ 悪いけど、勝手に進めてたわよ」

彩香「はやてがカエルになったんだよ」

はやて「なつとらん、なつとらん」

リオス「……………」

なのは「……………？ リオス君？」

リオス「……………だめだ」

彩香「だめって、何が？」

リオス「あつちの空間……………甘過ぎてやってられないよおお……………
……………」

リユネ「あつちって、確か……………ルークとフェイトが行った、ベツ
ドがある方よね？」

はやて「なんや、甘いなー、リオス君も」

リオス「はやて、そうは言っけどさあ……………」

はやて「うーん……………ならそうや、キスから慣らしてみたらどうや？」

リオス「な、慣らすって(汗)」

はやて「そんなアナタに、こんなものが(ポチ、っとな)」

ルーク『あむ、ふぁ……………』

フェイト『くちゅ……………ぺちゅ……………』

リオス「あわわわわわわ／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／

リュネ「うわー、過っ激ー……………／／／／／／／／／／／／／」

彩香「何、何ー？」

なのは「彩香ちゃんは見ちゃだめだよー(言いつつ目隠し)」

はやて「どや？ こんなキスシーン演じる人だっっておるくらいや。

リオス君にだってできないことは……………」

リオス「出来るか……………！！(泣)」

リュネ「あつ、また逃げた！」

はやて「なんや、根性あらへんなあ」

なのは「……………はやてちゃん。いくらなんでもこれは最初から過激

すぎじゃないかなあ？」

はやて「ただのフレンチキスなのに。よほど初心なんやなあ、リオス君はw」

リユネ「さて、なんだか混沌としてきてしまったので、ここでも入りまーす！」

エミリア「ねえ、天使。なのは達と離れてる間なにしてたの？」

リオス「ん〜、地球でサーフィンとかかなあ。あ、でも携帯で連絡取り合ってたよね？ なのは」

なのは「うん。1480円ってお手頃だから助かったよね〜」

エミリア「ほへえ〜……」

以下、エミリアの想像

リオス『世界外パケット、1480円！』

リオス『世界外パケット、1480円！』

以上、想像終了

エミリア「ぷふうっ！」

リオス「何が可笑しいのさ!？」

世界外通話はソフトパンクへ!

はやて「ノリノリで四つんばいになってサーフィンしながら宣伝してるんですね、解りますw」

なのは「あー、確かにこの時助かったよ。安かったし」

リュネ「……………え? これ、CMよね? マジ話だったの? (汗)」

彩香「あ。ルークとフェイト帰ってきたよ」

フェイト「ただいまー (つやつや)」

ルーク「た、ただいま……………戻りました…………… (げっそり)」

はやて「……………うん! 2人共無事戻ってきて何よりや!」

リュネ「いや、何あの2人の状態を何事もなかったようにしようとしてるわけ!？」

はやて「え? だって、何があつたかなんてもう視聴者の皆様方には解つとることやる? むしろ、げつそりやつれるだけで済んだことに喜ぶべきや。そう思わん?」

リュネ「うっ……何、この妙な説得力。狸の癖に」

ルーク「本当に疲れた…… フェイトさん、激しすぎるんですから
／／／／／／」

フェイト「うっ。でも、ルークだって夢中で(ピーーー)を)
バキューーーン!)してたじゃない／／／／／／／／」

ルーク「そ、それは……／／／／／／／／／／／／／／」

はやて「……なあ。私ら、もういらんちゃうかな?(涙)」

リュネ「……奇遇ね。私も今、同じことを思ってたところよ(泣)
」

なのは「……あ、リオス君も帰ってきた」

リオス「やあ、皆」

はやて「おお、リオス君。お帰り」

リオス「あの時逃げてしまった自分が恥ずかしい……。覚悟を決めてきたよ。はやピー」

はやて「……………え？ この展開は……………まさか(汗)」

なのは「はやてちゃん？」

はやて「いやな、お便りの中に、こんなのがあったんよ……………」

なのは「……………！ こ、これは！」

リオス「どんなキスシーンでもかかってこい……………さあ……………今度こそ振り切るぜ！ いや……………振り切らせてください！（言いつつ、はやての肩をがっしりホールド）」

はやて「り、リオス君！？……………ちよつ、確かにルークとフェイトちゃんのアレ見せたの私やけど！ 一旦落ち着こ！ な！？ ほら、コーヒーでも飲んで！！！」

なのは「リオス君落ち着いて！ はやてちゃんだよ！」

リオス「……………(ぐるん)」

なのは「え、何でこっち向いて……………って、私！？ ちよつ、待ってリオス君！ まだ心の準備が……………り、リオス……………くうん……………ツ……………(ぶっちゅー……………)」

はやて「うわぁ……………………………………………………」

ルーク「生ディープキス……………」

フェイト「自分がやってて気にならなくても、他人がやってるの見

るのって恥ずかしいね／＼／＼／＼／＼／＼／＼／

彩香「え、何々々々々々?」

リユネ「だから見ちゃ駄目だって(言いつつ目隠し)」

なのは「むづづづうう、はふう……むちゅづづう……ぶゅづづう
うう~~~~~)／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／
／／／」

フェイト「あぁっ!?! なのはの顔が林檎並みに真っ赤に!」

ルーク「しかもケムリまで出てるし! ちょ、これやめさせた方が
いいんじゃないの!?!」

はやて「えー、こんなニヤニヤシーン、どうしてやめさせなきゃあ
かんの?(ニヤニヤ)」

ルーク&フェイト「やめさせるよ、ね?(言いつつデバイス構え)」

はやて「……………は、はい(滝汗)」

リユネ「私は彩香ちゃん抑えてるから! 皆お願い!」

フェイト「わかったよ!」

ルーク「ほらリオス君、放して……………って、何コレ!? 凄い力で
ホールドされてる!?!」

はやて「全然手放さへんで!?!」

なのは「むじむじううう……………はうっ!?!?」(ボフンッ)「
気絶
した

フェイト「な、なのは……………!?!?」

事態收拾中。そのまましばらく、お待ち下さい)(b y 夏海)

はやて「ぜえ、ぜえ……………」

ルーク「はあ、はあ……………」

フェイト「や、やっと終わったね……………(汗)」

リユネ「結局、気絶しないと放してくれなかったわね。全く、どん
だけ暴走してたのよ」

彩香「ぶーっ、なんかほとんど喋れなかった気がするう〜〜〜」

フェイト「あはは、また今度、つてことで我慢してよ」

リュネ「さて、これでもうそろそろ番組は終わりが近づいてきたのよね。じゃあルーク君。最後に、番宣だけしてもらえるかしら？」

ルーク「あ、はい。解りました。えー、俺達が出ているのは、『魔法少女リリカルなのはStrikers Lost Memory』という作品です。作品紹介は、以前出演したからそこをチェックだ！（第2回参照）先日、本編が堂々の完結！今後掲載予定の新作も含め、どうかお見逃しなく！」

リュネ「はい、ありがとう。それじゃ、次はお便りの応募要項よ」

募集要項です。

まず、ゲスト出演条件。

書くネタの関係上、15話以上進んでいる作品で、それなりに出番もキャラの位置づけも決定しているキャラクターでお願いします。ネタにしにくいです。最後に、リリカルなのは、仮面ライダー作品、もしくはオリジナル作品のキャラであること。それ以外は今のところ受け付けておりません。どうしても、という方はメッセージまでお申し出下さい。知っている作品の2次であれば、出せるかもしれないので。

あとは特に基準はありませんので、お好きなキャラをどうぞ。

続いて、上記にも書きましたお便りコーナー。

送るのは、メッセージまで。住所（勿論架空。ネタでも構いません。その方が雰囲気出ますしね）、ペンネーム、送るコーナーのタイトルとその内容を書いて、神崎のメッセージボックスまでお願いします。

やってほしいコーナー、出してほしいネタCM、出して欲しい司会者も大募集です。どしどしご応募くださいませ！

それでは。たくさんのご応募、お待ちしております

リユネ「というわけです。そして、来週からはなんと！新コーナーがスタートするみたいなのよ！」

彩香「へえー！ ねえねえ、どんなのどんなの!？」

リユネ「それはね、こちら！」

『YOU！ 素直になっちゃいなYO！』

はやて「なんや、ノリがよさそうなタイトルやな。どんなコーナーなん？」

リュネ「えーと、リポーターがキャラの舞台裏に突撃し、胸の中に眠る恋心、嫉妬、怒り、その他もろもろの感情を聞き出しちまおうZE みたいなコーナーだそうよ。リポーターは……はやて、あなたになつてるわね。綾崎先生からのリクエストよ」

はやて「ほう、ついに私も自分のコーナー持てるんか！ 綾崎先生、ありがとうございます！ そして視聴者の皆様、私、八神はやてのコーナーにどうか、お便りよろしゅう！」

リュネ「さて、そんなわけで今回も終了の時間がやってまいりました！」

ルーク「いやあ、楽しかったよ。どうもありがとう」

彩香「いいっていいって」

リュネ「物語は完結しちゃったけど、続編ではアンタ達も出るんでしょ？ 本編、楽しみにしてるからね！」

フェイト「ありがとう。期待に沿えるよう頑張るよ」

はやて「あっちの方は程々にな〜！（ニヤニヤ）」

ルーク&フェイト「は、はやて（さん）！／／／／／／／／／／／／／／／／」

はやて「はっはっはっ、じゃ、またお仕置きされないうちに、帰る！」

バシユンッ！

ルーク「あつ！ 転移した！」

リュネ「逃げたわね……。まあいいわ。それじゃ、2人共気をつけてね。これ、ベビー用品。シエルちゃんに使ってあげて」

フェイト「ありがとう。助かるよ」

ルーク「それじゃ、またぜひ来させていただきますね！」

彩香「ばいばい！」

バシユン！

リュネ「……………行ったわね」

彩香「そうだねー。結構楽しかったね」

リュネ「今回が特別弾けてただけだと思っわよ（汗） いつもはボケ側の私が、ツッコミに走らなきゃならなかったくらいだし。それでは、今回はこの辺で失礼致します！」

彩香「また次回まで！」

リュネ&彩香「さようなら~~~~~」

次回の司会は、仮面ライダーディケイドAfter
the Movie Warより、門矢 士、光 夏海、小野寺
ユウスケ、色 彩香を予定しています。

それでは、次回もお楽しみに

第7回 マナーマナーと言ってるやつが、一番マナーが悪かったりする（後書き

リユネ」この放送は、GONAMIと、

（氷）凍練弩氷菓

（強）戸鍊次亜剣術スクール

（旅）仮面の破壊者

「ご覧のスポンサーの提供で、お送りしました」

第8回 クリスマスをゆったりと楽しめるのは、おそらく中学2年生まで

はやて「新コーナー！ YOU！ 素直になっちゃいなYO！ 司会の八神はやてやで！」

はやて「本日本音をぶっちゃけてくれるのはこの方や！ 我らが主人公、リオス君
「！」

リオス「ど、どうも（ドキドキ）」

はやて「そないにビクビクせんでもええやん（笑）」

リオス「い、いや。結構読者様方って、無茶な質問してくること多いじゃない？」

はやて「んー、せやなあ。けど、視聴者さんもきつと一線は弁えてくれとるよ。せやから、元気出してえな」

リオス「……………そう？ ならいいけど。それで？ 僕に来てるお便りって？」

はやて「よし、読むで。高町家の床下にお住まいの、PN：デフォルトさん。……………引越したんか。確かに痛くはなくなったけど、埃っぽくないんかなあ？ ていうか、狭そうなのは変わってへんし（汗）」

リオス「で、内容は？」

はやて「あ、せやったな。えーとお、『女体化した時のリオスの本

音を教えてください』だそうやで？」

リオス「本音も何も……………もう、恥ずかしくて恥ずかしくて。自分の身体すらまともに見れませんよ／＼／＼／＼／＼／」

はやて「初心なんやなあ、リオス君は（ニヤニヤ）」

リオス「は、はやてみたいに汚れてないんだよっ！／＼／＼／＼／／／／／／／」

はやて「……………なんやろ。目から汗が……………。こ、こんなんでごたれへんで！次回も様々な登場人物のホンネを探ってくんで、お便りよろしゅう！じゃな！」

生まで

なのは「はい、そんなわけで今回は！ リハビリ兼クリスマス特番！ ゲストなしのヒーローヒロイン集合な回です！」

リオス「冒頭で流れた映像は、YOU！ 素直になっちなY O！ ですね。インタビューはされたけど………やっぱり流れたか」

エルト「恥ずかしいのか？」

リオス「当たり前でしょっ！？//>//>//>//>//>//>//>//>//」

エルト「いや、作品によってはむしろ喜びそうな輩もいそうだからな」

リオス「少なくとも僕は、その類に入らないから………」（汗）

フェイト「まあまあ（汗） えっと、陽だまりスタジオをご視聴の皆様、お久しぶりです！ 今日はずっきなのはが言ったとおり、クリスマス特番と題しまして、本日は前作氷翼の天使の主人公リオス、そのメインヒロインなのは、新作リリカルAngelsの主人公エルト、そしてそのヒロインこと私、フェイトの4人を司会にお送りします！ 尚、作者さんのリハビリを兼ねているため、ゲストは本日は呼んでおりません！」

リオス「では、早速最初のコーナーいってみましょう。最初はこちら！ 『司会者に訊こう！』」

エルト「確か、司会者宛に届いた質問に、嘘偽りなく答えるコーナーだったな」

フェイト「高確率で、バラエティの罰ゲーム並のアクションが加わるけどね。今回もそんな匂いがぶんぶんします（汗）」

エルト「今回来たお便りはこちらだ。フェイト「T」ハラウオンの中に隠れ住んでいたが、バレてキバタロスと名前をつけられた、PN：ファンゲイマジン様。……………フェイトよ、そのネーミングはどうなんだ？（呆）」

フェイト「だ、だって可愛かったんだもん！（涙目）」

リオス「だからって、キバタロスはないかと……………。良 郎並のネーミングセンスだよ、それ（汗）」

エルト「で、内容だが。『魔導師に仮面ライダーの必殺技が直撃した場合、怪人と同じように爆発するのかバリアジャケットが解除されるだけなのか、魔王と名高い高町なのはで試してください』だそうだ」

なのは「何で私！！？ 後、私魔王じゃないもん！！！（泣）」

エルト「（無視）ほら、ロストドライバーとジョーカーメモリ」

なのは「まさかの無視！！？ 泣いちゃうよ！？ 私泣いちゃうよ！！！？（泣）」

リオス「ていうか、そう言いつつ僕に渡すところに明らかな悪意を感じるんだけど！！！？」

エルト「聞く耳持たん！ ええい、変身！！」

リオス「ちょ、待て『JOKER!』……………なっちゃったよ」

エルト「ほら、後はそれを、そこにいる魔王に当てるだけだ」

なのは「だから魔王じゃないってば！ それに、何でレイジングハートまでバリアジャケット展開してるの!? 何、私つてもしかして売られた!?!?」

レイジングハート『申し訳ありません。しかし、協力しなければ分解すると、彼が……………』

なのは「……………ああ、うん。なんかごめん」

エルト「ほら、早くしろ!」

リオス（ジョーカー）「え、えと……………」

なのは「り、リオス君……………（じーーーー……………/涙目）」

リオス（ジョーカー）「ううっ!?（涙目）」

なのは「じーーーー……………（超涙目）」

リオス（ジョーカー）「はううううっ!?!?（超涙目）」

なのは「じーーーー……………（もはや決壊寸前）」

リオス（ジョーカー）「う……………うわああああああん、も
うやだあああああ……………出来るわけないよおおお
おおお……………」

フェイト「り、リオス……………!? どこ行くの……………
!? 帰ってきて……………」

エルト「……………全く。バリアジャケットがあるのだから、命に別
状あるまいに……………。嘆かわしいことだ」

結論：魔導師のバリアジャケットに仮面ライダーの必殺技を当てよ
うとする。

A・ライダーは耐え切れず脱走する

エルト「そんなわけがあるか！」

士「……………陽だまりスタジオ」

リオス「お見苦しいところをお見せしまして、すみませんでした（汗）」

エルト「全くだ。少しも番組が進められないだろう」

フェイト「でも、さすがに酷だよ。リオスになのはを攻撃しろー、なんて」

エルト「……………フン」

なのは「さ、さあ！ 次のお便り行こっか！」

フェイト「そ、そうだよね！ さあ、次のコーナーはこれ！ 『言わせてみよう、あの台詞！』」

リオス「このコーナーは、司会者に言っしてほしい台詞を読者様の中から公募し、送られてきたものを僕達司会者が言う、という形になっております！」

エルト「最初のお便りはこれだ。高町家の道場の床下にお住まいのPN：デフォルト様。……………2回目の当選おめでとう。ではリオス、頼んだ」

リオス「はい……………って……………これ、言うの？ / / / / /」

エルト「お便りだ。言え」

リオス「くう。わ、解ったよ……………」

リオス「なんで！　なんで……………」

リオス「なんでバスタオルを胸まで上げただけで誰も僕が男だって気付かないんだあああ！！？（泣）」

なのは「&フェイト」だって可愛いんだもん」

エルト「胸どころか、腰布の状態でも女に見えるな」

リオス「……………あ、あれ、なんだろう。頑張ったのに、残ったのは大きなダメージだけ……………」（泣）」

なのは「いいじゃん、それだけ可愛いんだし！」

リオス「嬉しくないよお……………」（涙目）　うう、では次のお便り……………。ミッドチルダを放浪中の、PN：黒衣を纏う執行者さん。……………ほしひ、さばくを……………」

なのは「リオス君、チョイスが古いよ……………」（汗）」

リオス「そういうわけで、この台詞は……………エミリア！」

エミリア「はい」（ひょいっ）

なのは&フェイト「きゃあああああああっ！？」

エミリア「？」

フェイト「い、いきなり後ろから現れるなんて……………」

なのは「し、心臓に悪いの……………」

リオス「じゃ、エミリア。一緒にやるよ」

エミリア「……………はい」

リオス「ストライクフォーム！！」

エミリア「……………カツコイイ」

リオス「続いて、グラスパーフォーム！！」

エミリア「」

リオス「そして最後は……………エンジェルスフォーム！！！！」

エミリア「……………天使」

リオス「どうしたのエミリア？」

エミリア「……………ガーディアンフォームが……………抜けてる」

リオス「……………あ（忘れてた……………／焦）」

エミリア「ねえ……………どうして？（上目使い&ウルウル）」

リオス「そっ、それはね……………（汗）」

エミリア「それは……………？」

リオス「……………一個」

エミリア「??？」

リオス「……………い、一個飛ばすくらい凄いつて事だよっ！！（滝汗）」

エルト「……………忘れてたな」

フェイト「忘れてたんだ……………（苦笑）」

なのは「忘れてたんだね……………（汗）」

エミリア「……………ふえ（涙目）」

リオス「ちよつと！？　なんで僕が悪いみたいになってるのかな！
？　これネタだよ？　本当に忘れてたわけじゃないから！！！！」

フェイト「でも、ガーディアンフォームってエミリアと初めて会った時に発現したフォームだったよね？」

エルト「いかにネタとて、忘れてはエミリアもさぞ悲しいだろうな」

リオス「いや、僕にどうしろってのさ……………（汗） お便りなんだし、読まないってわけにもいかなかったくせに！」

エルト「当然だ」

リオス「……………この鬼畜う！（泣）」

なのは「え、えっと。なんだか混沌としてきたので、ここでCM入ります！」

リオス「へえー、古民家のリフォーム？」

はやて「せや。ダイバハウスはリフォームも得意なんやで。そこでウチもダイバマンをリフォームしてみたで。ダイバウーマンや、リオス君」

リオス「な！？ 何やってんのさ、あんたは！？」

(氷) 凍練弩氷菓

この冬！ 異世界の仮面ライダーがその熱き戦いの火蓋を落とす！

仮面ライダー×仮面ライダー クウガの介入×ディケイドAMW
Novels 大戦2011！

12月某日、放映予定！

なのは「さて、そんなわけでそろそろ時間ですね」

フェイト「まだリハビリなせい、それともゲストがいないせいか
…………。随分と短いね(汗)」

エルト「両方だろうな。これとて、浮かばない中必死にネタを考え

て書いたのだ。大目に見てやるうではないか」

リオス「……………なんか、僕らには辛辣なまでに厳しいくせに、作者さんには妙に優しいじゃないか(怒)」

エルト「何、最近不況だからな。少しでも媚を売って、給料をたっぷり落してもらおうと思っただけだ」

リオス「ぶっちゃけた!? 黒すぎるよこの人!!!」

エルト「冗談だ。何を真に受けている?」

なのは「……………その真顔で言われたら、誰だって真に受けるよ……………(汗)」

フェイト「あ、あはは……………(苦笑)」

エルト「さて、そんなところで本日はこれでいよいよ終幕を迎えるわけだが、次回からはいよいよゲストを再び招いていきたいと考えている」

リオス「漸く、ねえ」

エルト「については、作者より読者の皆様へ伝言だ。長い間放置していたせいで、誰が出演希望を出していたのか、というものを一度はつきりさせておきたいそうだな。については、このテレビに出演依頼を送った作者様は、その旨と出演させて欲しいキャラの詳細を、今一度メッセーじボックスの方へ送ってほしい。出来れば、出演キャラの性格的特徴の解る程度の簡単な台詞も書いてくれると助かるらしい。以上だ」

なのは「はい、それじゃあ私からも。応募要項です」

募集要項です。

まず、ゲスト出演条件。

書くネタの関係上、15話以上進んでいる作品で、それなりに出番もキャラの位置づけも決定しているキャラクターでお願いします。ネタにしにくいですし。最後に、リリカルなのは、仮面ライダー作品、もしくはオリジナル作品のキャラであること。それ以外は今のところ受け付けておりません。どうしても、という方はメッセージまでお申し出下さい。知っている作品の2次であれば、出せるかもしれないので。

あとは特に基準はありませんので、好きなキャラをどうぞ。

続いて、上記にも書きましたお便りコーナー。

送るのは、メッセージまで。住所（勿論架空。ネタでも構いません。その方が雰囲気出ますしね）、ペンネーム、送るコーナーのタイトルとその内容を書いて、神崎のメッセージボックスまでお願いします。

やってほしいコーナー、出してほしいネタCM、出して欲しい司会者も大募集です。どしどしご応募くださいませ！

それでは。たくさんのご応募、お待ちしております

フェイト「ふう、これで今回は終わっちゃうね」

リオス「疲れた……。なんだか今回は、始終弄られてたような気がするよ……」

なのは「あはは。でも楽しかったよね、リオス君」

リオス「う、うん……………／＼／＼／＼／＼／」

エルト「フン、こんなところまでイチャつくとは、お盛んなことだ」

リオス「ふふん、どうせ君もすぐ本編でこうなるよーだ！」

エルト「なっ……………（ガーン！）」

リオス「フツ、さて。華麗に反撃できたところで、今回はこの辺で終わります！」

なのは「これからはなるべく定期的に更新できるよう頑張りますので、」

フェイト「応援よろしくお願いします　それでは、」

リオス&なのは&フェイト「またねー」

エルト「作者、僕もあんなふうになってしまっのか!?　答えるー
……………っ!」

第8回 クリスマスをゆったりと楽しめるのは、おそらく中学2年生まで（後書

なのは、「この放送は、GONAMIと、

（氷）凍練弩氷菓

（強）戸鍊次亜剣術スクール

（旅）仮面の破壊者

「ご覧の スポンサーの提供で、お送りしました」

第9回 コラボ予告特別編！ 仮面ライダーディケイドAfter the M

士「今回はまた、俺達か」

夏海「なんでも、次回からコラボする作者様のところの方がゲストだからだそうですよ？」

ユウスケ「どうなるか楽しみだなあ」

彩香「でもさー、ゆうくん」

ユウスケ「？」

彩香「最新話の次回予告で大体は解るんだから、こんな宣伝みたいなことしなくても……」

一同「それは言っちゃだめ（だ／です）」

第9回 コラボ予告特別編！ 仮面ライダーディケイドAfter
the Movie War超スピンオフ

士「おお、珍しくまともなタイトルだな」

夏海「このために今回があるようなものですからね。失礼のないよう、きちんとやっていただかないと」

ユウスケ「そうだね。なんてたって、2回目のコラボ。相手の作者様も大物だし」

彩香「そんなことはさておき、ゲスト……にゅーーーーーじょーーーーー！」

士「grant先生作、『仮面ライダーWin 学園都市』より、
ハーフボイルド探偵、左 翔太郎。同じく、ビリビリ中学生こと、
御坂 美琴！」

翔太郎「どうも………っておい！ 誰がハーフボイルドだっ！
？」

士「お前しかいないだろうが」

美琴「私の紹介も、そこはかたなく悪意を感じるんだけど………誰

がビリビリかつ！」

士「いや、まんまだろ」

翔太郎&美琴「ああ！？」

士「迫るな、暑苦しい。それに、この紹介を考えてるのはプロデューサーだ。俺にあたるな」

美琴「へえ…………プロデューサーさん？ 後で…………覚悟しておいてね？（ニヤリ）」

P「うつ……………」

士「それはそうと。今回はこの2人を交え、『仮面ライダーウィザード 学園都市』、『仮面ライダーディケイド After the Movie War』のコラボ前記念特番をお送りするから、一時たりとも見逃すなよ！」

夏海「それにしても、久しぶりですね翔太郎さん！」

翔太郎「そうだなー。お前達が最初にWの世界へ来て、もうそれからは俺は学園都市にいたからな。結構な時間が経っているわけだ」

美琴「左さんがこっちの世界に飛ばされた原因、未だに解らないのよねえ……………」

ユウスケ「まあ、それはきつと物語が進んでいくうちに、ね。明らかになっていくんですよ」

彩香「そんなわけで！早速今回来たお便りを発表しよー」

士「俺達がここに司会として出なかったおかげで、俺達宛のお便りが溜まつてるからな。一気に消化するぞ！」

美琴「はあ！？じゃあ私達、その消化要員ってこと！？」

ユウスケ「まあ……………そういうことになっちゃう、かな」

彩香「特別編っていつても、基本はお便り読んで騒いで終わりだしねー」

翔太郎「ぶつちゃけやがったコイツ……………」

美琴「でも……………それにしたつてもっと何かないわけ！？例えば……………互いの作品の紹介をするとか！見所をちよつとだけ、とか！！！」

士「面倒臭え……………」

美琴「ああん！！！？（バチバチバチ…………）」

士「……………さあ、作品の紹介をするか」

翔太郎「変わり身早えー……………（汗）」

士「当たり前だ。幻想殺しじゃあるまいし、生身で超電磁砲喰らつてたまるか」

彩香「じゃ、作品の紹介しよっか、ゆうくん」

ユウスケ「お、俺！？……よ、よし。では、grant先生作、
『仮面ライダーW in 学園都市』の作品紹介を。読んだことのある方も、ぜひこの機会におさらいしてみてくださいね！」

仮面ライダーW in 学園都市

探偵として依頼された仕事を済ませ、事務所へ戻るべくバイクを走らせていた私立探偵、左 翔太郎。
いつの間にか濃く、深くなってきた霧の中、相棒のフィリップとの通信の最中、彼は異世界へ迷い込んでしまう。

辿り着いた先は、風都とは全く違う近未来的な別世界、その名も？
学園都市？。

他と比べ遥かにテクノロジーの進んだその未来都市では、学生が？
開発？という科目の下、？超能力？の発現を目指す場所だった。

全く違う場所で、翔太郎は1人途方に暮れ
2人の少女との出会いをきっかけに、様々な事件へ巻き込まれていく。
ることもなく、

異世界にも関わらず、現れるドーパント。

何故学園都市にガイアメモリが？ 翔太郎が召喚されたのは、偶然の悪戯か、それとも……？

仮面ライダー作品として人気を博した仮面ライダーWと、とある魔術の禁書目録インテックス、とある科学の超電磁砲レベルガンのクロスオーバー。様々な謎、そして超展開に目が離せない、grant先生の名作。

ユウスケ「……とまあ、こんな感じになっております!」

士「……………ベタ褒めだな」

夏海「仕方ないですよ。事実ですし」

翔太郎「あー…つと……………その渦中にいる俺たちにしてみれば、照れくさいようなこそばゆいような……………//」

美琴「なんとも言えない感じ、よね……………//」

士「ま、ここはありがたく評価として受け取っとけ」

ユウスケ「でも、本当に気になるよな。この先の展開」

夏海「キラーダーパントというキーパーソンも登場しましたし、まだまだ目が離せませんね!」

士「だな。さて、そしてその『仮面ライダーW in 学園都市』の栄えあるコラボ先である、我らが『仮面ライダーディケイド After the Movie War』だが……………これは面倒だし、振り返らなくても……………」

ユウスケ「いやいやいやいやいや！ ちゃんとやれよ！！」

美琴「ていうかアンタ、自分の番組なんだからちゃんと紹介しなさいよ……………まあ、私らが言える立場じゃないけど」

士「五月蠅いな、ビリビリ」

美琴「ビツ……………ふ、フン！ まあいいわ。こっちの世界に来たら覚えておきなさいよ！」

士「期待ないで待ってるぜ、ビリビリ」

美琴「……………っ！」

翔太郎「どうどうどう！ 抑える御坂！ このスタジオ丸ごと吹き飛ばす気か！？」

美琴「く、う……………（プルプルプル……………）」

夏海「まあこのスタジオ特殊な魔法が施されてるみたいですし、そうそう壊れるものでもないみたいなんですけど……………」

ユウスケ「それ以前に、俺たちが吹っ飛んじゃうから……………ね？（汗）」

美琴「うっ……………わ、解ったわよ」

士「賢明な判断だな、ビリビリ」

美琴「ぐうぐうぐうぐう！ この溜まりに溜まったフラストレーシ

ヨシ！ 絶っつっつっつっつ対に、本編で発散してやるんだから
あああああああああああああ！」

夏海「ちなみに、美琴さんと士君が戦う可能性は？（ぼそっ）」

P「えーと、60%くらいですね（ぼそぼそっ）」

ユウスケ「微妙だな（汗）」

アイリ「陽だまりスタジオ」

士「さて、そういつわけで、そろそろお便りコーナー行くぞ」

翔太郎「結局、お前達の作品の紹介はしないのかよ……………」（汗）」

彩香「うちの番組はそういうのが売りだからねーw」

翔太郎「それでよく来たいゲストがいるよな……………（汗）」

ユウスケ「それはともかく、早速コーナーいってみようか！
まずはこれ、『言わせてみよう、あの台詞！』」

彩香「司会者の皆に言ってほしい台詞を、実際に司会者に言っても
らっちゃうコーナーだよー」

士「最初のお便りは……………高町家の道場の床下にお住まいの、PN：
デフォルトさん。これは、俺となつみかんで言う台詞だな」

夏海「では、いきましようか」

夏海「それを渡してください、土君！」

士「構わないが……………」

夏海「なら早くー！」

士「ああ、『笑いのツボ』を突くのを止めてくれたらな！」

士「なつみかん封じだな！wwww」

夏海「そんなんっ……。本当にこんなことになったら……。誰が土君を止めるんですかっ！（涙目）」

美琴「いや、そんな深刻に悩まなくても……………（汗）」

ユウスケ「いやー。結構切実なんだよ、これ？（汗）」

翔太郎「どんだけだよ、土……………。じゃ、じゃあ次だな。えーと。機動六課のシャワールーム（女子）の中にお住まいの、PN：八神家を追い出された orz kei - - kuma・Tさん。……………通報した方がよくないか？」

土「いや、そのネタは前やったぞ」

美琴「ていうかそれ以前に、壁の中に埋まっただら見るものも見えないと思うんだけど」

翔太郎「ああ、そうか……………ってそういう問題じゃなくてだな」

夏海「まあまあ、通報はスタッフの方に任せて、私達はお便りにいきましよう。今度は……………私とユウスケですね」

ユウスケ「よっしゃ、来い！」

夏海「土君……………ちょっと頭冷やそっか」 親指構え

ユウスケ「土

ッ

！」

ユウスケ「み、美琴ちゃんまで笑いのツボを……………！」

彩香「あはは、皆笑ってばっかしwww」

夏海「やりますね、美琴ちゃん？」

美琴「そうですか？」

夏海「ええ、見事なフィンガーテクでした！（がしっ）」

美琴「ありがとうございます！（がしっ）」

彩香「おお、笑いのツボで生まれる友情……………」

ユウスケ「奇妙すぎるよ……………って、あれ？ おかしいな、2人の視線が俺を狙っているような気がするでしょうがないんだけど（汗）」

夏海「後は、ユウスケだけですよ……………？」

美琴「大丈夫、ちょっと痛いだけですからね……………？」

ユウスケ「え、あの、2人共？ 目が据わってるよ？（汗）……………
…あ、俺、ちょっと腹の調子が悪いから勘弁してほしいかな、なんて……………」

夏海「大丈夫ですよユウスケ。笑いのツボなら、腹痛もばっちりですから……………」

ユウスケ「逆に悪化する気がするんだけど!?! ちょ、そんなじり寄ってこないで、怖いからっ!」

夏海「さて……………」

美琴「それでは……………」

ユウスケ「ひ……………」

ユウスケ「あ……………」
……………っ!?!?」

ラウ「陽だまりスタジオ!」

士「……………さて、それではそろそろお開きにするぞ」

夏海「ああ、もうそんな時間ですか」

美琴「早いものね」

翔太郎「そうだな。だが！『仮面ライダーディケイド After the Movie War』の次回から始まる俺達のコラボは、この程度じゃ終わらねえ！普通のライダー世界並の大ボリュームでお届けする予定だから、な」

士「そういうわけだ。仮面ライダーディケイド After the Movie War、学園都市編は、早くても来週のうちには更新予定だ」

夏海「世界を跨ぎ、悪と戦い続ける探偵との再会は、何を齎すのか」
ユウスケ「そして、俺たちがその世界で出会う敵、事件とは一体何なのか！」

美琴「楽しみに待ってなさいよっ！」

士「それじゃ、次の更新でまた会おう」

美琴「最後に、応募要項のお知らせよ」

募集要項です。

まず、ゲスト出演条件。

書くネタの関係上、15話以上進んでいる作品で、それなりに出番もキャラの位置づけも決定しているキャラクターでお願いします。ネタにしにくいです。最後に、リリカルなのは、仮面ライダー作品、もしくはオリジナル作品のキャラであること。それ以外は今のところ受け付けておりません。どうしても、という方はメッセージまでお申し出下さい。知っている作品の2次であれば、出せるかもしれないので。

あとは特に基準はありませんので、好きなキャラをどうぞ。

続いて、上記にも書きましたお便りコーナー。

送るのは、メッセージまで。住所（勿論架空。ネタでも構いません。その方が雰囲気出ますしね）、ペンネーム、送るコーナーのタイトルとその内容を書いて、神崎のメッセージボックスまでお願いします。

やってほしいコーナー、出してほしいネタCM、出して欲しい司会者も大募集です。どしどしご応募くださいませ！

それでは。たくさんのご応募、お待ちしております

翔太郎「それじゃ……………またな」

士「……………珍しく、ハードボイルドで決められた、だと?」

翔太郎「なんでそんなに衝撃を受けた顔してんだよ、お前はっ!?!?」

美琴「……………やっぱりハードボイルド、よね?(呆)」

第9回 コラボ予告特別編！ 仮面ライダーディケイドAfter the M

土、この放送は、GONAMIと、

(氷) 凍練弩氷菓

(強) 戸錬次亜剣術スクール

(旅) 仮面の破壊者

(裁) ジャッジメント 風紀委員

常盤台

ご覧の スポンサーの提供で、お送りしたぞ」

第10回 最近の魔法少女はドロッドロだなあ……………え？ こいつだけ？

リオス「今回は予定を変更して、僕達らしいよ？」

レーネ「全く。仮面ライダーの連中がやるって聞いてたから、今回は楽できると思ってたのに—————！」

エミリア「……………仕方、ない」

リオス「あはは、まあそう面倒くさがらないで。今回は君たちにも関係のある、あの人がゲストなんだから」

レーネ「？ あの人？」

リオス「うん。……………ふふふっ」

レーネ&エミリア「????？」

リオス「では、かなり空けちゃってごめんなさい！」

レーネ「久しぶりだからはっちゃけるわよ！な回っ」

エミリア「始まり、始まり」

第10回 最近の魔法少女はドロッドロだなあ……………え？ こいつだけ？

レーネ「うん、それは否定しないわー」

エミリア「（ガクブル）」

リオス「あはは……………ドロッドロだったよねー（汗）」

レーネ「リリなのが熱血ものなら、まどマギはドロドロものよね。……………さて、じゃあいつまでもタイトルに突っ込んでないで、さっさと本題に移りましょー」

リオス「そうだね。では、本日のゲストをご紹介！ 鮮血の刻印先生監修、『魔法少女リリカルなのはWars』、及び『魔法少女リリカルなのはStrikers JIHAD』十二神と墮天使の戦い』より。クールなツンデレ（？）墮天使！ 最近はその作品のヒロインにも手出しちゃったぜ！ ヴィレイサー＝セウリオンさ

んにお越しいただいております！」

ヴェレイサー「……………よし、解った。リオス、今すぐ表出る」

リオス「ぼ、僕じゃないんだって！ カンペにそう書いてあるんだってっ！！」

ヴェレイサー「ちっ、仕方ねえ。ていうか、お前はまだいい。他の司会がレーネとエミリアって、明らかに作為的な何かを感じるんだが？」

レーネ「何よー。私達じゃ不服だったの？」

エミリア「……………ちよつと、心外」

ヴェレイサー「いや、別に。ただ、Efエンドなんてやった間柄だ。お前達の方がやり辛いんじゃないかと思ってな」

レーネ「べ、別に私はそんなこと思ってなんか……………／／／／／」

エミリア「……………ぽっ／／／／／／／／」

リオス「あはは……………なんていうか、今回は僕がアウェイのような気がするよw」

ヴェレイサー「何、お前なら大丈夫だ」

リオス「何の根拠があってそんなこと言っつかさ(溜め息)」

ヴェレイサー「何、この前の休日になのはと夜通し』『ピー』『で』『ピ』

カリム「陽だまりスタジオ！」

レーネ「さて、落ち着いたところでそろそろ本題いつてみましょうか」

リオス「それなんだけど。今回から、番組形式が大幅変更となります」

エミリア「変更？」

ヴィレイサー「どの辺りがだ？」

リオス「まず、今までのコーナーが少し変わります。よりアクティブに出来るように、っていう配慮のようですね。この番組、未だにラジオだと思っている人多いですから」

ヴィレイサー「本当はテレビだったな、確か」

リオス「そ。だから、ちょっとそれらしいコーナーを作ろうと思いまして」

レーネ「なるほどね。で、どんなの？」

リオス「ずばり、これ！『MC、ゲスト！ これやってみなさい！』」

レーネ「あれ？ 確かこんなの、前にもあったわよね？」

エミリア「やってみなさい、このミッション」

レーネ「そうそう、それぞれ」

リオス「いやー、あまりの人気のなさに、企画が潰れちゃって」

ヴィレイサー「……………不憫な。で、どんなところが新しくなったんだ？」

リオス「実際に読者から募集したネタをやるのは一緒なんだけど、そこにゲストやMCを巻き込んで皆で挑戦してみようと、そういう企画らしいよ？」

エミリア「面白そう」

レーネ「ま、確かにね。あんまり前のと変わらない気はするけど、気分を一新するにはちょうどいいかも」

ヴィレイサー「早速お便りも届いているな」

リオス「読むね。ええと、ミッドチルダ機動六課隊舎にお住いの、PN：スバルIIナカジマさん……………って何やってんの、スバル！

？ 『アイスの大食いで誰が一番早く食べられるのか。試してみてください』 だって」

ヴィレイサー「スバル……………なんてくだらんお便りを」

レーネ「ま、でも私達それが仕事なわけだし。拒否るわけにもいかないわよ？」

エミリア「アイス、楽しみ」

リオス「……………まあ、やれと言われればやるけどさあ」

ヴィレイサー「お。早速運ばれてきたぞ？」

レーネ「うわ、また大きいわね……………」

エミリア「ビッグ、サイズ」

リオス「じゃあ……………いきますよ？」

ヴィレイサー「やれやれ……………仕方ないな」

レーネ「じゃ、スタートッ！」

数十分後 。

ヴィレイサー「……………ふう、漸く食い終わったな」

レーネ「私も。もう当分アイスは食べる気しないわ……………」

ヴィレイサー「で？ リオスは？」

レーネ「……………あそこ」

エミリア「……………ふみゆう……………」

リオス「ああっ、エミリア零してる。ほっぺにもついてるよ？」

エミリア「みゆ？」

ヴィレイサー「なんというか……………すっかり保護者だな（呆）」

レーネ「どこのおかんかったの！」

ヴィレイサー「勝負は……………俺とレーネでドローってことでいいか」

レーネ「……………もういいわよ、それで（溜め息）さ。アレは放つておいて、さっさと次行くわよ。ほら、お便り読んで」

ヴィレイサー「ゲストにお便り読ませるのか、このテレビは……………。……………何々？ とある青年の身体の中にお住まいの、PN：欲望鳥人様……………タカ！ クジャク！ コンドル！ 『スタジオに送った

ボックスの中身を当ててみる』だそうだぞ」

レーネ「ボックスって……これよね？」

ヴィレイサー「また、見るからに怪しげだな……」

エミリア「要、注意」

レーネ「……やっと来たわね」

リオス「ごめんごめん。で、最初は誰から行く？」

エミリア「誰、って……」

ヴィレイサー「そりゃ……」

レーネ「ねえ？」

じいじ……っ……。

リオス「……何？ 皆、どうして僕をそんなにじっと見るのかな？ (汗)」

ヴィレイサー「……リオス」

リオス「な、何……？」

ヴィレイサー「……男を、見せる(サムズアップ)」

リオス「真顔でサムズアップ!? だったらヴィレイサーがやればいいじゃないかっ!」

ヴィレイサー「俺は……………あれだ。お前が弄ればそれでいい」

リオス「最悪だ! 最悪だよこの人っ!」

レーネ「ええい、四の五の言わないの! さっさと、やるっ!」

リオス「えっ……………わああああっ!」

ズボツ。

リオス「わっ、なんか触った!……………うわ、なんかふさふさしてて……………ひゃっ!? 今動いたよおおおっ!」

レーネ「ふさふさ?」

ヴィレイサー「動物か何かか?」

リオス「わ、解んない……………ひゃわっ!? また動いたっ!?!」

レーネ「な、なんだか私達まで怖くなってくるわね……………一体何が入ってるのかしら?」

ヴィレイサー「さあな。ま、碌なものでなさそうなのは確かだが……………」

レーネ「……………な、何よ」

ヴィレイサー「……………」

レーネ「……………」

ヴィレイサー「……………後は頼んだ」

レーネ「コラアアアアアアアッ！ 何でもう諦めてるかあああああ
ああっ！？」

ヴィレイサー「いや、だって解らないし」

レーネ「だからって、諦めんのが早すぎだっって言ってるのよ！ 返
せっ！ さつきちよっとアンタのことカッコイイとか思った私のさ
さやかな純情を返せええええええええっ！」

ヴィレイサー「仕方ないだろう、解らなかったものは」

リオス「まあ、そのとおりだね。……………さて、じゃあ今度はレー
ネの番だよ？（ニヤリ）」

レーネ「うっ……………わ、解ったわよ。や、やややややややってやろ
うじゃないのおおっ！」

リオス（わ、解り易過ぎるほどに怯えてるな……………／汗）

レーネ「行くわよ……………いざっ！」

リオス「あーあ、泣いちゃった……………（じとーっ）」

ヴィレイサー「な、何だその視線は！ 俺の所為か!？」

リオス「他に誰がいるってのさ?」

エミリア「さ?」

ヴィレイサー「……………解った、解った！ たく、仕方ないな……………おいレーネ!」

レーネ「ふえ……………?」

ぎゅっ。

ヴィレイサー「すまなかつたな……………まさかそこまで取り乱すとは思わなくてな」

レーネ「ば、ばかああああー……………」

ぎゅっぎゅっ……………。

リオス「……………うーん、なんだろう。今、決定的フラグ建設現場に立ち会ったような気がしてならないww」

エミリア「右に、同じw」

ヴィレイサー「てめえら……………実は楽しんでないか?（怒）」

リオス「ベーツにー？」

エミリア「にー？」

ヴィレイサー「……………つ、疲れる…………orz」

リオス「じゃ、ここで一旦CM入りまーす！」

レーネ「……………ぐすっ」

エルト「会長！ 『高町なのはプラン』を『TNP』とは本気ですか！？」

リオス「僕はいつでも本気だよ。」

エルト「だが日本語な上に意味が分からんし……………」

リオス「分からないのかい？ 『TNP』……………。 ちょっとかっこいいからだよ」

エルト「なん……………だと……………！？」

高町なのはプラン！ 機動六課・新企画進行中！

それは、新たな天使の物語。

「今日からこのクラスに、転校生が来ることとなりました」

「リオスⅡコーネルドです。皆さん、よろしく」

襲い来る絶望、名を魔女。

「これが……………魔女!？」

そこに現れし、白い悪魔。

「僕と契約して、魔法少女になってほしいんだ！」

「いや、僕男だし……………」

絶望を齎す魔女と、希望という名の狂気を振りまく白き悪魔。

この2つの異形の存在は、世界へ何を齎すのか。

「僕が……………この絶望のループを断ち切るんだ！ キュウベえ！
僕と契約しろっ！」

「面白いね……………魔法少年の誕生だっ！」

魔法少女まどか マギカ Featuring 氷翼の天使

今夏、放映予定。

貴方の一番大切なものは、何ですか？

レーネ「いや、ありえないでしょこの予告」 復活した

ヴィレイサー「無理がありすぎるな。第一、どうやって男をキユウベえと契約させる気だ？」

リオス「勿論、嘘予告だから書かれないけどな。作者さんの妄想では、契約してすぐにリース化させるといってんでもないものだったらしいけど……」

レーネ「なるほど、それならアリね」

ヴィレイサー「謎が解けたな」

エミリア「天使、頑張れ」

リオス「いや、嘘予告だからね!!!? 察してよ、その辺り!!!?」

レーネ「ま。確かにこれだけ連載を抱えてる作者が、これ以上作品を書けるわけないものね」

ヴィレイサー「仕方がないな」

リオス「うう………さ、さて、気を取り直して。いよいよ、お別れの時間がやって参りましたので、ヴィレイサー、作品紹介を」

ヴィレイサー「了解した。えー、俺が出ている2作品、『魔法少女リリカルなのはWars』、『魔法少女リリカルなのはStrike rs JIHAD』十二神と墮天使の戦い』は、地球から実験体としてミッドチルダに渡った俺、ヴィレイサー「セウリオンが繰り広げる戦いの物語だ。あのような駄作者の作品だが、気が向いたら見てやってくれ」

リオス「はい、ありがとう。……だけど、鮮血先生は駄作者じゃないと思うよ?」

レーネ「うんうん、作者もそう言ってたし」

エミリア「……………面白い」

ヴィレイサー「……………まあ、そういうことにしておいてやるう」

リオス「あはは……………さて、ではそろそろお時間が来たようです!」

レーネ「コーナーは、今日紹介したものの以外は基本的にはとりあえず同じだから、どしどしお便り送ってきてよね?」

エミリア「ゲストや司会への、個人的質問も……………待ってる」

ヴィレイサー「それじゃ、以下が募集要項だ」

募集要項です。

まず、ゲスト出演条件。

書くネタの関係上、15話以上進んでいる作品で、それなりに出番もキャラの位置づけも決定しているキャラクターでお願いします。ネタにしにくいです。最後に、リリカルなのは、仮面ライダー作品、もしくはオリジナル作品のキャラであること。それ以外は今のところ受け付けておりません。どうしても、という方はメッセージまでお申し出下さい。知っている作品の2次であれば、出せるかもしれないので。

あとは特に基準はありませんので、好きなキャラをどうぞ。

続いて、上記にも書きましたお便りコーナー。

送るのは、メッセージまで。住所（勿論架空。ネタでも構いません。その方が雰囲気出ますしね）、ペンネーム、送るコーナーのタイトルとその内容を書いて、神崎のメッセージボックスまでお願いします。

やってほしいコーナー、出してほしいネタCM、出して欲しい司会者も大募集です。どしどしご応募くださいませ！

それでは。たくさんのご応募、お待ちしております

ヴィレイサー「さて。今回はこれで終わりか……………早く終わった分、なんだか寂しくもあるな」

リオス「よかったらまた来てよ。次はもうちょっと、いろいろネタを用意しておけるように頑張るからさw」

ヴィレイサー「期待しないで待つておくことにしよう」

レーネ「もう1回来ることは決定よね？ 何せ、アンタは私のもの
なんだし」

ギゅっ。

ヴィレイサー「なっ！？／／／／／／／／／／／」

エミリア「……………違う」

レーネ「へ？」

エミリア「ヴィレイサーは…………私の、もの」

ギゅゅゅゅ。

ヴィレイサー「はああああっ！？／／／／／／／／／／／／」

レーネ「アンタとは…………どうやら一度、しっかり決着つけておく
必要がありそうね……………？」(チャキッ)

エミリア「……………それはごちらの、チャキッ台詞」

ヴィレイサー「お、おい、2人共落ち着いて……………」

レーネ&エミリア「ヴィレイサーは黙っててっ！／／／／／／／／／／／／／／／／」

／／／／／

ヴィレイサー「……り、リオス？（汗）」

リオス「えと………頑張つて、ね？（にっこり）」

ヴィレイサー「り………」

ヴィレイサー「理不尽だろうがああああああああ……
……………」

レーネとエミリアのヴィレイサーへのフラグはあくまでもこの番組内とEフェンドのみでの設定であり、コラボなど、それ以外では

適用されないことをここに明記させていただきます。

次回の司会は、仮面ライダーディケイド After the Movie Warより、門矢 士、光 夏海、小野寺 ユウスケ、色彩香。

ゲストには、フロスト先生の作品、『仮面ライダー逆鬼と夜天と魔法少女と』より、主人公のサカキ、ヒロインことソラ、ザ、リアルコンさんを予定しています。

フロスト先生、何かご要望などありましたら仰ってください！

では、次回もお楽しみに！

第10回 最近の魔法少女はドロッドロだなあ……………え？ こいつだけ？（後書

リオス「この放送は、GONAMIと、

（氷）凍練弩氷菓

（強）戸鍊次亜剣術スクール

（旅）仮面の破壊者

「ご覧の スポンサーの提供で、お送りしました」

第11回 せんせい、キバットは人数に含まれますかー？

士「今回こそ、司会は俺達が担当するぞ」

夏海「楽しみですねー。今回のゲストはどんな方々なんでしょう？」

彩香「ふんふんふーん」

ユウスケ「……………あの、彩香ちゃん？ やけに機嫌いいけど、何やってるの？」

彩香「ふっふっふー！ よくぞ訊いてくれました、ゆうくん！ じやーん！」つ何やら怪しげな石の円盤

夏海「これって……………」

ユウスケ「まさか……………（汗）」

彩香「さっきそこで怪しい人形肩に座らせた人にもらったんだけどさー、開かないんだよねえ、これー」

士「あんのマツドめ……………なんてもの持ち込んでくれてんだ（怒）没収だ、没収！」

彩香「はにゃっ！？……………ぶーっ、土のおーうーぼーうー！」

士「だーっ、喚くな！ そして裾を引っ張るなああああっ！」

夏海（土君……………）

ユウスケ（土………）

夏海&ユウスケ（ナイスっ！！！！）

第11回　せんせー、キバットは人数に含まれますかー？

士「……………モンスター、だろ？」

ユウスケ「でもそれだと、あそこでカメラ回してるキバーラはどうなんだ士？」

士「……………もう、どっちでもいいだろ」

夏海「よくありません！　キバーラは私の大切な仲間なんですから、ちゃんと人数に入れてくれなくては困りますっ！」

士「仕方ないな……………解ったよ」

彩香「でさでさ、士。今回のゲストってどんな人たちなの？」

士「2人共ライダーだ。強さも折り紙つきだぞ？」

ユウスケ「へえ、それは楽しみだな！」

夏海「では、早速ご入場いただきましょう！」

士「フロスト先生監修、『仮面ライダー逆鬼と夜天と魔法少女と』

より、ポケもツッコミもなんでもござれ、主人公のサカキ！そして、いつも優しい常識人、でも時々天然なキバの資格者、ソラ「ザ「ファルコンの登場だ！」

サカキ「こんちは」

ソラ「こ、ここがスタジオですか……………やはりというか、見ているのとはまた違った感じですね」

夏海「いらつしやいです、お2人共。ソラさん、もつと肩の力抜いていいですよw」

ソラ「は、はい！」

士「さて。まずは自己紹介からか。軽くでいいから頼む」

サカキ「よっしゃ、まずは俺からだな。えー、視聴者の皆さん初めまして。仮面ライダー逆鬼こと、サカキだ。訳あって今は、リリカルなのは世界の八神家に居候中だぜ。宜しくな」

ソラ「初めまして、皆さん。ソラ「ザ「ファルコンと申します。蒼剣のキバ、と呼ばれるキバの鎧の資格者です。宜しくお願ひしますね」

ユウスケ「はい、ありがとう！ さて、それじゃあ番組の方に入ろうか」

彩香「よし、早速いつてみよー」

士「今日のコーナーはこれだ。『MC、ゲスト！ これやってみな

さい!』」

夏海「前回から始まったこのコーナー。そろそろもうちょっと他のコーナーも増やしたいですね」

ユウスケ「視聴者の皆様、何か意見がありましたらこちらまでお願いします!」つ神崎はやて メッセージボックス

士「というわけで、始めるぜ。まず最初のお便りはこれだ。風都の診療所にお住いの、PN:マッドサイエンティストさん。……………おのれ井坂アアアア!」
『T2ガイアメモリを最初から最後まで全部言ってみなさい』だそ
うだ」

サカキ「いや、俺Wの世界の住人じゃねえし」

ソラ「わ、私も無理ですよっ!?!」

ユウスケ「じゃあ士、言ってみてくれよ!」

士「……………ったく、仕方ねえな。じゃ、行くぜ!」

A…アクセル

B…バード

C…サイクロン

D…ダミー

E…エターナル

F…ファンゲ

G…ジーン

H…ヒート
I…アイスエイジ
J…ジョーカー
K…キー
L…ルナ
M…メタル
N…ナスカ
O…オーシャン
P…パペティアー
Q…クイーン
R…ロケット
S…スカル
T…トリガー
U…ユニコーン
V…バイオレンス
W…ウエザー
X…エクストリーム
Y…イエスタデイ
Z…ゾーン

士「以上だ」

ソラ「わーっ、いっぱいあったんですね……………」

ユウスケ「全部で26本だもんね」

夏海「凄いですよねー」

サカキ「……………いや、確かに凄いけどな？ もっと凄いののは、今俺たちの前にその現物があるってことだと思っただが（汗）」

彩香「スタッフさんが手に入れてくれたんだよー」

サカキ「どこから！？ T2とか明らかに裏ルートだろ！！？ この番組のスタッフ一体何者！！？」

士「履歴書を見たが……………どいつもこいつも経歴不詳だったな」

サカキ「それでよく採用したな、このスタジオは……………（呆）」

ソラ「でもこうして見ると、なんだかどんなふうになるのか想像つかないメモリとがありますよね」

ユウスケ「キーメモリとかね。どんなになるんだろう。鍵って……………」

士「びつくりなのがオーシャンだ。なんと、液状化するらしいぞ？」

ソラ「何ですかそのチート!?!？」

夏海「驚きの能力ですね……………」

サカキ「……………ていうか、こんな悠長にしてていいのか？ あれだろ、T2って適合する相手の身体に勝手に入り込んでドーパントになるんじゃないか？（汗）」

士「心配ないだろ。この場にいる奴の中で、メモリに適合するやつなんか……………」

『QUEEN!』

一同「……………へ？」

ソラ「あ……………あ、ああ……………」

サカキ「……………ちよ、ちよおっ!? クイーンメモリがソラ
ん中に入ってたぞ!!!?」

士「ええ……………あー、ごほん……………あー、あー、あー。俺は
何も見ていない、聞いていない」

サカキ「こんな時に現実逃避をするなあああ……………」
「!」

ソラ(?)「おーほっほっほっほ! この私が女王! さあ愚民共、
我が前に跪けええええええええっ!」

サカキ「そしてこっちはなんだか凄いことに……………!?
おいソラ、目を覚ませ!! キャラ変わりすぎだから……………くく
くくくくつwwwwwwww」

ユウスケ「サカキ君……………爆笑しながら説得って、なんか矛盾して
るよ……………(汗)」

ソラ(？)「何だ貴様。女王である我に齒向かうか？ よかろう、ならばかかってくるがいい！」

ユウスケ「な、なんだか凄いことになってきたぞ!？」

夏海「とりあえず止めましょう！ 変身っ!！」

士「仕方ねえな……………変身!！」

ユウスケ「変身!！」

逆鬼「仕方ねえか……………よし、やるぞ!！」

一同「(おう/はい)！」

彩香「……………ふーん、ふむふむ、なるほどお……………ねえねえ、士、ゆーくん」

クウガ「何、彩香ちゃん?」

デイケイド「今忙しいんだ、後にしとけ」

彩香「これこれ。これ見てよ」

デイケイド「一体何だっただ……………説明書?」

クウガ「ええと、何々? Q……………クイーンのメモリ。女王の記憶を宿したガイアメモリ。使用者に与える能力は、『鉄壁のバリアーを発生させ敵の攻撃を防ぐ』」

その他一同「……………はっ？」

ソラ（？）「貴様ら如きの攻撃が、私に効くかあああああああ
ああ……………！」

逆鬼「ソラ。なんていうか……………早く戻ってこい。今のお前、凄く面
倒くさいぞ（汗）」

キバーラ「ていうかキバットはどこ行ったんですか！？ 一応この
子の相棒でしょう！！？」

逆鬼「ああ、キバットならさつき、スタッフにつまみだされてたぞ。
お前は招待されてない、って」

デイケイド「やっぱり、人数には入らなかったか……………って、んな悠
長なこと言ってる場合か！」

ソラ（？）「我に従えええええ……………！」

デイケイド&逆鬼「やかましいっ！」
&音撃打
ファイナルアタックライド

ソラ（？）「へぶっ！？」

照井「陽だまりスタジオだ……振り切るぜっ！」

ソラ「お、お見苦しいところをお見せしました……／／／／／／／／／／／／」
／／／「なんとかメモリを排出してもらった」

サカキ「いやいや、結構いいものを見せてもらったぜ？w w もう、
大爆笑w w w 女王なんて柄じゃねえだろ、くくくくくw w w w w」

ソラ「ひ、酷いですよう、サカキ様……／／／／／／／／／／／／」

夏海「今度から、スタッフには徹底した管理の下小道具を手に入れてもらうことにしないといけませんね」

士「これ終わったら、とりあえず一回シメる（握り拳）」

ユウスケ「お、お手柔らかに……………な、士？（汗）」

夏海「さて、それでは気を取り直して、次のお便りいってみましよう」

ユウスケ「そ、そうだね。では、次のお便り！ 地球外金属生命体の体内にお住まいの、PN：武士道さん。…………切捨て、ごめええええええええええんっ！

『あちらの部屋で、私のガンダム談義を語ってしんぜよう。いや、むしろ語らせr（ry）……………だつてさ』

サカキ「うわ、凄まじく行きたくねえ……………」

ソラ「ていうか、あちらの部屋ってどこですか。今日このスタジオに来てるんですか、この人!？」

彩香「そういえば控え室からこのスタジオ来る途中、凄い賑やかな部屋が1つあったな！。なんか、『会いたいぞ……………会いたいぞ、ガンダムうとううううううう……………』とか聞こえてきたww」

士「……………十中八九それだな」

サカキ「ていうかアレだ。別にお便りが来たからって、無理にやる必要ないんじゃない？」

ソラ「サカキ様そんな、実も蓋もない(汗)」

夏海「そうですよ。ていうか原則、送られてきたお便りはやるのが決まりですし」

士「じゃあ訊くがな、なつみかん。お前、このお便りに素直に従って、ガンダム談義とやらを聞くのか？」

夏海「そ、それは……………」

サカキ「きつと3日3晩くらい不眠不休で語られ続けるぞ？俺だつたらまず堪えられねえ」

夏海「う……………」

ソラ「わ、私、寝不足はお肌の大敵だつて聞いたことあります！」

ユウスケ「いやソラちゃん、それちょっと根本的にズレてるから……………(汗)」

サカキ「そうだぞソラ。それに肌だけじゃない。もう身体の組織と**いう組織が瞬く間に老化して**いって……………」

ソラ「ええっ!?!」

士「コラ、てめえも変な形で悪乗りすんな。話が進まねえだろ」

サカキ「いやー、今日はずっと突っ込んでばっかだったからな。こ
こらがボケどころかと思つてなw」

士「まあ、いい。で？ どうするなつみかん」

夏海「……………や、やっぱりやめておきます」

サカキ「よし、じゃあスルーの方向で」

士「よかったな。これでお肌は守られたぞ？（ニヤ）」

ソラ「そ、そうでした！ よかったですね夏海さんっ」

夏海「は、はい……………？」

ユウスケ「いや、だからそれは違っつて……。あ、ちょっとここでCM入りまーす！」

エルト「TNPが高町なのはプランだというのは納得できた。……………
…しかしだな、我が社の高町なのはプランには、レイジンググハート
増産という裏づけがあるというのに、何故……………」

リオス「裏づけを……………表へ出してどうするんだい？」

エルト「……………はあ」

プラン順調に進行中！ 詳しくはWebで！

夏海「キャッチ！」

ユウスケ「おお！ ナイスだ、ナイス！」

ウオツチャマン「ヘイ、ヘイ！」

ユウスケ「展開しろ、展開っ！」

士「キャッチ！」

ユウスケ「おーっ、いいぞっ！」

士「スローツ………って、これが英語の授業か？」

音也「身体で覚えるってことだろ」

真夜「音也。イングリッシュ、イングリッシュ」

ユウスケ「行け行け行け！」

ウォッチャマン「スローッ」

渡「ヘッド!!」

ユウスケ「オー、マイ、ガッド!!」

士「デイスイズザ、ボール!!」

ユウスケ「いいね、その発音!!」

夏海「パワー!!」

音也「ウツプス!!」

ユウスケ「こっちフリーだ、フリー、フリー!!」

士「スロー」

渡「オー、ノーッ!!」

ユウスケ「学生3年無料って、何て言うんですか?」

キバット「ステューデント、スリーイヤーフリーだ!!」

音也「リアリー?」

ユウスケ「スリーイヤーフリーだ!!」

ウォッチャマン「五月蠅いよ、先生!!」

彩香「せっかくだし、最後に1つやっちゃおうよ」

夏海「そうですね。では、お便りを読みますよ。えー、とある逆鬼の世界にお住まいの、PN：悪魔系グリードさん」

サカキ「……………は？」

ソラ「……………え？」

夏海「『留守番だとやっぱり寂しいので、ベリアルヤミーを送り付けました。頑張つて倒してね、ヒヤハツ』……………だ、そうですが」

ソラ「そ、そこで私を見ないでくださいっ！（涙目）」

サカキ「何もなければおかしいと思ってたんだ！何が『ヒヤハツ

』だ、あの野郎おおおおおっ！」

ユウスケ「うわわわっ！？言ってるうちに来たぞっ！？」

士「ちっ、迎撃するぞー！」

サカキ「あの野郎……………」

サカキ「帰ったら、覚えとけよおおおおお……」

なのは「え、えーと。MCとゲストの皆さんはヤミー退治で忙しい
ようなので、番宣などは私から。ええと、サカキ君とソラさんのお

2人が出演しているのは、フロスト先生監修の『仮面ライダー逆鬼と夜天と魔法少女と』。逆鬼の世界、戦国にいた仮面ライダー逆鬼ことサカキ君が、何の因果かはやてちゃんの家！ 他にも登場する仮面ライダー達と共に、リリカルの世界を戦い抜く物語です！
ぜひご一読くださいませ！」

リオス「じゃあ、応募要項は僕から」

募集要項です。

まず、ゲスト出演条件。

書くネタの関係上、15話以上進んでいる作品で、それなりに出番もキャラの位置づけも決定しているキャラクターでお願いします。ネタにしにくいです。最後に、リリカルなのは、仮面ライダー作品、もしくはオリジナル作品のキャラであること。それ以外は今のところ受け付けておりません。どうしても、という方はメッセージまでお申し出下さい。知っている作品の2次であれば、出せるかもしれないので。

あとは特に基準はありませんので、好きなキャラをどうぞ。

続いて、上記にも書きましたお便りコーナー。

送るのは、メッセージまで。住所（勿論架空。ネタでも構いません。その方が雰囲気出ますしね）、ペンネーム、送るコーナーのタイトルとその内容を書いて、神崎のメッセージボックスまでお願いします。

やってほしいコーナー、出してほしいネタCM、出して欲しい司会者も大募集です。どしどしご応募くださいませ！

それでは。たくさんのご応募、お待ちしております

なのは「では、」

リオス「今週はこの辺で！」

リオス&なのは「まったねーーーーー」

その頃、とある控え室。

「????」おのれ……………何故誰一人としてここへ来ない!?……………
はっ、まさか、手合わせを拒まれたかつ!! ならば、君たちの視
線を釘付けにしてみせよう! 今行くぞおおおおおおおお
「……………!!」

T o b e c o n t i n u e d …………… . . ?

今回の司会は、新魔法戦記リリカルAngels（The Ruler of Gods）より、エルト「クリーバー、ソフィア」ジユリストン、マリサ「ネティアス」。

ゲストには、マグネス先生の作品、『魔法少女リリカルなのはStrikerS』罪を背負いし墮天の翼』より、主人公のツバサ「ランスロー」さんを予定しています。

マグネス先生、何かご要望などありましたら仰ってください！

では、次回もお楽しみに！

第11回 せんせい、キバットは人数に含まれますかー？（後書き）

リオス「この放送は、GONAMIと、

（氷）凍練弩氷菓

（強）戸鍊次亜剣術スクール

（旅）仮面の破壊者

（革）革新者の集い

ご覧のポンサーの提供で、お送りしました………って、何か増えてるっ!?!?」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7647m/>

神の黄昏超スピノフ！ ～陽だまりスタジオ～

2011年10月6日14時18分発行